

ISSN 1347-5495

経営研究

Business Research

No. 68

平野 恭平（神戸大学大学院経営学研究科）

神戸大学附属社会科学系図書館の
蔵書に残された落書きの調査報告

2023 年 3 月 22 日

神戸大学大学院経営学研究科

神戸大学附属社会科学系図書館の蔵書に残された落書きの調査報告

平野恭平

1. 蔵書に残された落書きの資料的価値

神戸大学附属社会科学系図書館の一部の蔵書には、1940年代後半から1950年代中頃にかけて学生たちによって書かれたとみられる落書きが残されている。この落書きについては、すでに平野恭平・三井泉・藤田順也「経営学部創設期の「落書き」による学生たちの心性史試論：神戸大学附属図書館蔵書を一例として」（『日本経営学会誌』第48号、2021年12月）で取り上げられている。同論文では、戦前から経営学を提唱し、日本初の経営学部の創設に主導的な役割を果たした平井泰太郎の著書『経営學入門』（千倉書房、1932年）と『経営學通論』（千倉書房、1935年）に残されていた学生たちの落書きを分析している。従来のように、経営学と商学の学問論争や経営学部創設をめぐる議論について、それぞれの代表的な立場の教員の著書・論文や教授会をはじめとする各種議事録などの内容から考察することにとどまらず、学生たちが手にしたであろう図書館の蔵書に残された落書きから、学制改革を経た時代の学生たちの平井泰太郎や彼の提唱する経営学に対する考えや心情を読み解き、当時の歴史的な状況を総体的に記すことを試みたものである。

現代であれば、SNSを通じて学生たちの「心の声」を拾えるかもしれないが、過去のことになると極めて困難になる。しかしながら、ある特定の場所（神戸大学附属社会科学系図書館）の、ある特定の本（経営学部創設を主導した平井泰太郎の著書）に残された多くの学生たちの落書きは、その手掛かりを与えてくれる。学制改革期から経営学部発足後の時期にかけて書かれた落書きは、経営学の旗手である平井泰太郎に向けられた応援や批判、彼が教える経営学に対する学生なりの批評など、かつての学生たちの「心の声」が蘇るようなものであった。経営学を応援しなくなった学生も、経営学をよく分からないと感じた学生も、伝統ある商学の方が学問らしいと思った学生も、そういった自分たちの「心の声」を同じ年代の学び舎を共にする誰かに伝えたい、聞いてもらいたい、共感してもらいたいと思っていたように感じられる。当時の学生たちにとって、落書きは、現代のSNSのように、匿名性をもって「心の声」を表明する手段になっていたといえる。

このような蔵書に残された落書きの資料的価値については、平野・三井・藤田の前掲論文でも言及されているが、改めて触れておくことにする¹。現在では、かつてのような発展段階論に規定された歴史だけではなく、個性ある歴史を目指すという立場や過去を主観的に構築されるものとみなす立場もあって、歴史資料は多様化している。オーラル・ヒストリーや画像資料がよく取り上げられるが、本報告が取り上げる落書きも、歴史資料の1つに位置づけることができると考える。

蔵書に残された落書きではないが、中世・近世の寺院への落書きに注目した研究では、以下のように落書きを日常の思考様式や感覚に迫れる歴史資料と評価する。

落書きは、人間の意識の最も深い部分をさらけ出すのである。文書や記録では、絶対に

うかがい知ることのできない世界が、落書きにはあるのだ。これを読み解くことで、私たちは過去に生きた人々の、意識の深い部分にまで、思いを致すことができる²

ポンペイの埋もれた街に残された落書きを取り上げた研究でもいわれるように、落書きを「精神の積極的な発露の作業」³とみなすのであれば、落書きから人々の想い・考え・葛藤などを汲み取ることによって人々の心性史に迫ることができる。エッセイ的な内容ではあるが、かつての所有者が本に残した落書きをはじめとする痕跡を取り上げようとしたものもみられる⁴。必ずしも痕跡を歴史資料として検討しているわけではないが、その痕跡を残した者の当時の心情に迫ろうと想像をめぐらせており、落書きというものに向き合う上で求められる姿勢を示唆している。以上から、蔵書に残された落書きは、従来とは異なる視点と歴史資料から新たな歴史を描ける可能性を秘めているといえる。

神戸大学附属社会科学系図書館の蔵書に残された落書きについては、平野・三井・藤田の研究を通じて、平井泰太郎のいくつかの著書に落書きがあることは確認されているが、そのすべてが把握されているわけではない。そこで、平井泰太郎の他の著書だけではなく、同時代に生きた関連分野の教員の著書までを含めた調査を行い、学生たちの残した落書きの全体像に迫っておくことも必要になる。この点は、神戸大学附属社会科学系図書館の蔵書に残された落書きが、比較的限られた時期に特定の教員の著書に書かれたのかどうかということを確認するという重要な意味があり、歴史資料として評価することにもつながるものである。

また、蔵書に残された落書きについては、保存面でいくつかの問題にも直面している。その1つが、落書きそのものが失われつつあるということであり、約70年の時を経て落書きのインクが薄くなっているものや、1940年代に発行された蔵書を中心に紙の劣化が進んでいるものなどがある。もう1つは、落書きが改変・追加されるということであり、多くの人々が利用できる書架に置かれているために過去の落書きに手が加えられたり、新たな落書きが書かれたりする可能性がある。歴史資料としてみれば、蔵書に残された落書きが当時の状態のまま保存されていくことが望ましいが、現状では必ずしもそれを保証することはできない⁵。

このようなことから、神戸大学附属社会科学系図書館の蔵書についてのより広範囲な調査を行い、現状を一度把握するとともに、全体像に少しでも迫ることを試みた。本稿は、その調査結果を報告するものである。

2. 平井泰太郎と学生たち

歴史研究の中で落書きを資料として利用するのであれば、落書きが書かれることになった背景を理解しておくことが必要である。大きなコンテキストとしての経営学と商学の学問論争や経営学部創設をめぐる議論については、すでに平野・三井・藤田の前掲論文で整理されているに加えて、『神戸大学百年史』をはじめ、いくつかの詳しい文献がある⁶。そのため、ここでは調査結果を報告する前に、平野・三井・藤田の前掲論文では十分に上げることができなかった平井泰太郎の人物像や学生たちとの関係に焦点を絞って、わずかなではあるが補足しておくことにする。

ゼミ生を除けば、多くの学生たちが平井泰太郎に接することができたのは講義の場であ

ったとみられる。その講義の様子については、当時、実際に講義を受けていた学生が後に何らかの機会に書いたものが手掛かりになるが、その1つとして、1970年に逝去した平井泰太郎の追悼記念に刊行された『種を播く人』（平井泰太郎先生追悼記念事業会、1974年）がある。同書は、追悼記念であることから寄稿者や内容に偏りがあるが、学生として接した思い出が数多く寄せられており、平井泰太郎の講義の様子や人物像について参考になることも少なくない。そこで、以下では、それらの回想をみておくことにする。

よくいわれるように、平井泰太郎の主唱する経営学は、新しい学問として学生たちを惹きつけていたところが少なからずあったようである。例えば、1933年に台北高等商業学校に在籍していた山岡伊三雄は、当時読んだ平井泰太郎の著書『経営學入門』について、以下のような感想を残している。ここで言及される『経営學入門』は、平野・三井・藤田の前掲論文でも取り上げているように、経営学に関心を寄せる者が手にすることの多かったものであるが、学生たちにとって評価や好みの分かれるものであったようである⁷。

中学から高商に進んだ私には商業関係の予備知識は全く無く、また若い身にあり勝ちな、何か高尚な理論を求めたいという気負いから、簿記とか商業学といった学問が単に技術としての知識に過ぎないような気がして、どうしても馴め^{（マメ）}なかった。そんな時、たまたま先生の「経営学入門」を手にし、新しい学問の生命の息吹に強く打たれ、何か「経営学」という魅力ある学問が一步一步近づいて来る足音のようなものさえ聞えるようで、我を忘れて一気に読み通したことを今でも忘れることができない⁸。

平井泰太郎は、生きた事実を具体的に捉える必要を訴え、具体的な事実で検証されない抽象的な理論では困るという立場であったといわれる⁹。平井泰太郎の経営学は、ただ新しい学問というだけではなく、実際のビジネスや経営の話を交えての講義であり、それを経営学という切り口で様々に解釈や解説したことから、学生たちには、「生きた経営学」として魅力的に映ったともみられる。そのため、平井泰太郎の講義が面白かったという共通点を多くの回想で見出すことができる。神戸商業大学の卒業生であり、神戸経済大学附属経営学専門部講師・教授を経て神戸大学経営学部教授となった稲葉襄は、以下のように思い起こしている。

先生の授業は天馬空をかけるがごとく、想いがわきあがるにつれ、とうとうと話された。ときどき奇声に近い調子の高い大声を発せられるので、居眠り組は雷にでも打たれたように、いやでも目を覚まされることがしばしばであった。先生得意のポーズは、調子がのると必ずといってよいほど、両手の親指をチョッキのポケットに入れて、教壇を行きつ戻りつされながら、講義を続けられるお姿であったと思う。

大きな目を爛々と輝かせ、時に口からアワを飛ばせながら、大声でまくしたてる先生の講義には、常人が考えも付かないようなアイデアや角度の違った新しい解釈が飛び出し、私などはその着想の奇抜さや雄大さにまったく心打たれることがしばしばであった。他の先生方とはスケールの違った点をお持ちのようにも感ぜられた。そのかわり、先生の講義のノートをとることには苦心した。先生のお話を順序にしたがって、そのままってはノートにならないからである。私は止むを得ず、講義中はノートをとらず、

ひたすら先生のお話を拝聴し、終ってから、お話を私なりに整理してノート作りをしたものである。先生の講義は実社会に通じた者でなければできないような材料を次々と話題にのせ、巧みに経営学の講義を進めていかれた。若い学生の私などは、先生の講義を聞くたびに、生きた経営学を聞く思いであった¹⁰。

学生たちが平井泰太郎の講義を面白く感じていたのは、実際のビジネスや経営のことだけでなく、夢を抱かせるような近未来の姿を語っていたことにも一因があったように思われる。ただ、そのような中には荒唐無稽のものもあったことから、平井泰太郎は学生たちに「法螺吹き」や「大風呂敷」の異名をつけられていた。神戸大学経営学部教授となった松田和久は、次のような話があったことを書いている。

第二次大戦中すでに先生が、将来テレビが一般家庭に普及し、六甲山腹にトンネルができて、大学から有馬へはすぐに行けて、計算はすべてコンピュータになりますよ、といって、人々を笑わせておられたとき、私も夢の話を聞いていた一人である¹¹。

しかし、新制大学に移行した当時の学生たちは、単純明快に物事を割り切りたがる学生気質のようなものがあつたともいわれており、平井泰太郎の講義は、面白かったという声とともに、体系的やまとまりのなさを指摘する声も多くみられた。この点は、平野・三井・藤田の前掲論文で取り上げられた落書きにもみられたことである。1951年10月に明治大学商学部より神戸大学経営学部に移った溝口一雄は、次のような古い卒業生たちの話を残している。

古い卒業生たちにきいてみると、「先生の講義は面白かった。だが、あまり面白いのでノートをとり忘れてしまって、結局試験のときにはあわてふためくことになる」というような声が多い。先生はどちらかといえば、あまり体系的な話は好まれなかったようである。しかし、学生たちに深い印象を与えた講義をされたという点ではおそらく先生の右に出る人はいないであろう¹²。

平井泰太郎門下で後に神戸大学経営学部教授となる森昭夫も、「平井先生というのは非常に博識で、ものすごくいろいろなことをご存じですが、知りすぎているがゆえにまとまらないみたいなどころがあつて、理論的にどうなんだというかたちでの説得力という点になると必ずしも」¹³明瞭ではなかったと語っている。平井泰太郎としては、自身の手掛けた教科書もあつたことから、必要があればそれらを読めばよいという感じであつたようにも思われてならない¹⁴。この平井泰太郎を身近にみてきた森の回想としては、真面目そのものの態度で講義を行っていた宮田喜代蔵の経済学原論との対比や平井泰太郎という人物の理解など、大変興味深いものがあるため、少し長くなるが紹介しておきたい。

お二人の講義っぷりは、対照的で、宮田先生の講義は、まことに理路整然、体系的で、概念規定を一つ一つ積み重ねて、じゅんじゅんと説いてゆくというタイプで、決して大きくはありませんが鋭い、よく透る声で「現象と事象との違いは……」と真面目そのも

のの態度で講義されていました。一方平井先生の講義の方は正に型破り、ある時はワレ鐘のような大声を出して絶叫されるかと思えば、またある時は机をドンと叩いて、次に一段声を低め「そこでね諸君！」と呼びかけ口調に変わるといったタイプで、はじめて先生の講義に接した私のような、無気力な一般学生は文字通りドギモを抜かれたものでした。ジェスチャーもなかなか派出で、チョッキ（当時まだ背広は三つ揃えが普通でした）の脇のところに両手の親指を突っ込んで、残りの四本の指を前に広げるのが先生お得意のポーズでありましたが、そんな時先生のお話しは良く脱線され、その脱線がまた面白く、内容的にも為になるものであったため、聞く方としてはその脱線の方について引き込まれ、話しの本筋が何であったかが分からなくなってしまうということが、チョイチョイ起ったものでした。…中略…

先生の講義は、内容豊富で警句に満ちており、たしかに面白かったのですが、難解なこともまた一入でした。講義だけでなく、お書きになったものについても同じことが言えます。これは、当方の理解力の不足もさることながら、先生の側にもその原因の一端がなかったとは言えないと思います。

確かに先生は、その極めて旺盛な好奇心に裏打ちされた博覧強記、時代の大きな流れを見通す鋭い直観、洞察力、時に強引とも思える積極的な実行力、企画力といった面で偉大な資質にめぐまれ、能力をフルに発揮されましたが、半面、体系的整序性とか、論理を追っての説得力といった点では、かならずしもめぐまれてはおられませんでした¹⁵。

最後に、平井泰太郎が設立を主導した神戸経済大学附属経営学専門部の第1期生である島岡司の回想をみておくことにする。平井泰太郎の話を面白く聞いていた学生も、懐疑的に聞いていた学生も、経営学を代表する教員として平井泰太郎を認め、「泰さん」と親しみを込めて呼んでいた様子が見ええる。

一般に十九からはたちは生意気ざかりである。いつの間にか学生の私も陰では平井先生のことを「泰さん（やっつさん）」と呼び、「どうも泰さんの話にはホラがある」とか何とか、いっぱしの論評を加えたりするようにはなっていたが、しかし何といっても平井先生は当時の神戸経済大学の象徴であることは間違いなかったし、当時学生の私たちの大きな誇りであったことも言をまたない¹⁶。

ここまでみてきた回想は、平井泰太郎に近く、好意的に捉える人々によるものであり、平井泰太郎の講義の様子や人物像を理解するには偏りがあるかもしれないが、多少なりともそれらを知る手掛かりになるといえる。実学として実際のビジネスや経営との関係で学びを得たいという学生には、平井泰太郎の講義は極めて有意義なものであったかもしれないが、基礎科学のようないかにも大学という場での学問を志向する学生にとっては、講義では冗談が多く、まとまりを欠く話であったことが、真面目な態度ではないと映った可能性もある。平井泰太郎や彼の教える経営学を支持する学生たちや、学問的・感情的に立場を異にする学生たちの「心の声」が、落書きという捌け口となって現れたのであろう。

3. 調査の概要

調査対象とする神戸大学附属社会科学系図書館の蔵書は、平井泰太郎のものだけではなく、福田敬太郎・服部英次郎・宮田喜代蔵の著書・訳書も加えることにした。まず、福田敬太郎については、学制改革期から経営学部発足後の時期にかけて落書きが書かれたことを考えると、その創設をめぐって異なる意見をもち、学問的にも商学を代表する立場として経営学の平井泰太郎と論争を繰り広げており、彼の著書にも学生たちが何らかの痕跡を残している可能性があると思われたため、対象に加えることにした。また、服部英次郎についても、経営学部の創設に反対していた予科の代表的な教員であったことから、その著書・訳書も調べておく必要があると考えた。このような教員間の立場の違いに基づく調査対象の選定の他に、分野的な違いを考慮して、平井泰太郎や福田敬太郎と同時代に経済学部で教鞭を取っていた宮田喜代蔵を確認的な意味合いで対象に加えることにした。先に取り上げた森の回想でも、平井泰太郎とは正反対の講義の様子であったとされており、調査する意義はあるように思われた。

4名の教員の著書・訳書のうち、落書きが主にみられた1950年代中頃までに発行されたものを対象としたが、平井泰太郎に向けられる落書きが多かったことを考慮して、彼についてはその時期を超えたものについても、一部ではあるが調査することにした。また、教員が編者になっているものや執筆者の一員として加わっているものについても対象とした。その中には、平井泰太郎と福田敬太郎のように2名の論文・記事が同時に収録されているものもあるが、編者として名前の挙がっている方に分類・集計した。これらの調査対象のうち神戸大学附属社会科学系図書館の個人文庫に置かれているものは、元は各教員が所蔵していたために除外している。ただし、教員の蔵書であっても、退職などに際して同館に寄贈されて、個人文庫ではなく通常の本庫に配架されているものもあり、現時点で通常の本庫に置かれているものについては調査対象とした。

今回の調査では、蔵書にみられる「落書き」と「書き込み」を確認することを目的としており、ただの線引きや印は対象としないことにした。一般的に、「落書き」は、書くべきでないところに目的もなく文字や絵をいたずら書きしたもの、「書き込み」は、文章を読んで気づいたことや不足していることなどを書き加えたものとされる。今回の調査で確認された「落書き」には、文章や内容に関連して、もしくはそれに端を発して書かれているという意味では「書き込み」的な性格をもっているものもみられたが、多くは日常の講義などで接する教員＝著者を意識して書かれたものであり、著者やその教える学問に対する肯定的ないし否定的な考えや意見、さらにはやや感情的になった賞賛・悪口・揶揄などが含まれていた。そのため、今回の調査では、「書き込み」は、個人的な感情を抜きにして、文章や内容について純粋に学問を学んだり考えたりする上で書き加えられたものに限定し、文章や内容に関連しても、教員やその学問に対する個人的な感情がうかがえるものについては、あえて「落書き」とした。この定義は、今回の調査を行うために設定したものであり、今後より精緻化していくことも必要であると考えた。

今回の調査では、まずは全体像の把握を優先したため、1冊の中に「落書き」や「書き込み」が何箇所あるのかまでは数えず、どちらか1箇所でも確認されれば、「落書き」のある蔵書、もしくは「書き込み」のある蔵書として集計した。1冊の中に「落書き」と「書き込み」の両方がみられる場合には、それぞれに集計した。「落書き」や「書き込み」について

は、文字の上をインクで塗りつぶすか幾重もの線で判読できないまでに消したもの、紙やインクの問題から文字が消えかけて判読が難しいもの、鉛筆で書かれた文字が消されて薄くなったものなどが少なからず含まれているが、部分的にでも判読できるものであれば、可能な限り集計の対象とすることにした。4名が編者となっているもののうち、この4名以外の者が執筆した部分に「落書き」や「書き込み」がある場合にも集計の対象に含めることにした。

具体的な調査は、2021年10月より神戸大学経営学部平野恭平ゼミに所属する学生たちが分担して進めた。当初の分担は、平井泰太郎が五味健太郎・津曲杏奈・樋口知士、福田敬太郎が高木裕太・子川修都・眞鍋泰自、服部英次郎が紙谷咲彩・三輪紫苑、宮田喜代蔵が水田千尋・吉住宗晃であった。しかし、調査を進める中で、服部英次郎の著書・訳書の数少なく、落書きもほぼみられないことから、紙谷咲彩には著書・訳書が多い宮田喜代蔵の調査に加わってもらった。また、一部の著書については、平野が調査したものもある。このように分担して調査を進めたが、対象となるすべての蔵書を確認するには至っていないため、2023年2月末までに調査を行った著書・訳書の一覧を付表として示すことにする。

調査の際には、著書・訳書の書誌情報とともに、本扉付近に押された図書館印にある受入日も確認することにした。受入日は、「落書き」や「書き込み」の行われた時期を考える手掛かりの1つになるためである。「落書き」や「書き込み」については、カメラで撮影するとともに、書かれている页数や場所、その他の気づいた点などを記録し、可能な限り翻刻や解説を付すことにした。なお、すべての「落書き」や「書き込み」を記録することは難しいため、複数人によって書かれたまとまりのあるものや会話のようにになっているもの、内容的・表現的に興味深いもの、目立った特徴のあるものなどを優先して記録することにした。

これらの記録については、すべてを掲載して紹介することはできないため、以下のものを付属資料として載せることにした。まず、平井泰太郎については、「落書き」を中心に特徴のあるものを掲載し、参考として一部の「書き込み」を紹介することにした。福田敬太郎については、数少ない「落書き」の例を挙げるとともに、いくつかの「書き込み」の例を、宮田喜代蔵については、「落書き」がみられなかったため、「書き込み」の例を載せることにした。

4. 調査の結果

まず、表1から全体の傾向を整理すると、やはり平井泰太郎の著書・訳書に落書きが集中していることが明らかとなり、84冊のうち12冊(14.3%)に落書きがみられた。他の教員の著書・訳書には、落書きはほぼみられず、福田敬太郎の著書73冊のうち2冊(2.7%)にみられただけであった。一方、書き込みについては、平井泰太郎が19冊(22.6%)、福田敬太郎が15冊(20.5%)、宮田喜代蔵が47冊のうち10冊(21.3%)となっており、ほぼ同程度であったことが分かる。論争があったとしても、学生たちの落書きだけは、平井泰太郎の著作・訳書に集中し、そこで学生たちの「心の声」の会話がみられたといえる。

この点をもう少し補足しておく、押印されていた正確な時期は不明であるが、少なくとも1932年から1953年までに受け入れた蔵書の一部には、「参考書」印が押されたものがあり、それらは多くの学生たちが手にしたとみられる。表2によると、平井泰太郎の著作・訳書で「参考書」印がある7冊のうち6冊(85.7%)に落書き、4冊(57.1%)に書き込みが

みられた。福田敬太郎の落書きがみられた 2 冊の著書のうち 1 冊にも「参考書」印がみられた。学生たちが手にする頻度の高い参考書のようなものについては、学生たちも他人にみられるということを分かった上で、意図的に落書きを書いていたようにみえる。

最後に、表 3 の著書・訳書の発行年と受入年に着目すると、1950 年代中頃までの蔵書に落書きや書き込みが多いことがうかがえる。福田敬太郎と宮田喜代蔵については、その傾向が強くみられるが、平井泰太郎については、落書きや書き込みがある 23 冊のうち、1950 年代前半までに発行されたものが 18 冊 (78.3%)、受け入れられたものが 14 冊 (60.9%) であり、落書きに限定すれば、発行年が 1950 年代前半以前 9 冊、1950 年代後半以降 3 冊となっている。個々の落書きや書き込みからみても、1959 年 10 月 21 日の日付が書かれたものもあり、1950 年代後半には減少しているものの、依然として 1950 年代末にかけても学生たちが落書きを行っていたことが裏づけられる。推測の域にとどまるが、1960 年に平井泰太郎が定年退職を迎えるまで、前期に経営政策、後期に経営学総論の講義を行っていたこともあって、その講義を受けた学生たちが、講義で言及された本に講義の感想も交えて落書きを行ったという可能性がある。また、蔵書に残された落書きをみて、つい落書きを書きなくなったということもあり、落書きが落書きを呼び込むという面もあったように思われてならない¹⁷。

表1：調査結果 (1)

	A (冊)	調査対象			
		落書き		書き込み	
		B (冊)	B/A (%)	C (冊)	C/A (%)
平井泰太郎	84	12	14.3	19	22.6
福田敬太郎	73	2	2.7	15	20.5
宮田喜代蔵	47	0	0	10	21.3
服部英次郎	4	0	0	0	0
合計	208	14	6.7	44	21.2

(注) 1冊の中に「落書き」と「書き込み」の両方がみられる場合、それぞれに集計した。

表2：調査結果 (2)

	A (冊)	参考書印のある蔵書			
		落書き		書き込み	
		B (冊)	B/A (%)	C (冊)	C/A (%)
平井泰太郎	7	6	85.7	4	57.1
福田敬太郎	9	1	11.1	3	33.3
宮田喜代蔵	1	0	—	1	100
服部英次郎	0	0	—	0	—
合計	17	7	41.2	8	47.1

(注) 1冊の中に「落書き」と「書き込み」の両方がみられる場合、それぞれに集計した。

表3：調査結果（3）

	平井泰太郎		福田敬太郎		宮田喜代蔵		服部英次郎	
	発行年 (冊)	受入年 (冊)	発行年 (冊)	受入年 (冊)	発行年 (冊)	受入年 (冊)	発行年 (冊)	受入年 (冊)
1290年代	0	0	1	1	1	1	0	0
1930年代	10	8	8	7	3	2	0	0
1940年代前半	0	0	1	0	3	3	0	0
1940年代後半	0	0	1	1	2	1	0	0
1950年代前半	8	6	4	4	1	1	0	0
1950年代後半	4	6	0	0	0	1	0	0
1960年代	1	1	0	2	0	1	0	0
1970年代	0	2	0	0	0	0	0	0
合計	23	23	15	15	10	10	0	0

（注）「落書き」と「書き込み」の一方ないし両方が確認された蔵書の発行年と受入年を集計した。

落書きの内容としては、平井泰太郎の講義の影響や印象が少なからずあったと思われる学生たちの体感的なものではあるが、経済学や商学と比べた経営学の脆弱な体系性、曖昧な概念の定義や理論の展開、抽象的・比喩的な表現などに不満がもたれていた傾向がある。また、経営学でいう利潤追求という点を忌避したり揶揄したりするようなものもあった。このような批判的・否定的な落書きに対しては、教員と学生たちとの距離が今以上に近く、平井泰太郎の熱い想いを直接受け止めた学生たちによると思われる擁護や応援の落書きがみられた。その擁護や応援の落書きは、学問的な内容をともなったものというよりも、感情的なものにとどまっていた。福田敬太郎の著書にも、わずかながら落書きがみられたが、文章や内容とは離れる形で、しかもやや感情的な面をともしつつ、散発的に書かれたものであった。一方、書き込みについては、学生たちが真面目に勉強していた様子が伝わってくるようなものが、福田敬太郎や宮田喜代蔵の著書・訳書によくみられた。それらの中には、著者の主張を批判的に検討しながら読み進めている姿が浮かび上がってくるものもあった。

今回の調査によって、平井泰太郎の著書・訳書に集中する形で数多くの落書きが残っていることが明らかになった。経営学部の象徴的な存在であり、経営学を背負って立つ平井泰太郎は、好意的に感じていた者にとっても、批判的にみていた者にとっても、否定的に捉えていた者にとっても、注目の的となっていたのであろう。落書きが活発にみられた時期は、平野・三井・藤田の前掲論文で指摘されるように、学制改革期から経営学部発足後の時期である1940年代後半から1950年代前半までに多くみられたが、その後も、平井泰太郎の個性が、学生たちを惹きつけ、落書きを書こうとする気持ちを誘発していたのかもしれない。

5. 展望と課題

平井泰太郎の著書・訳書に残された落書きについては、経営学と商学の学問論争や経営学部創設をめぐる議論を学生側の視点から捉えるだけの資料にとどまるものではない。経営学の確立・発展に情熱を注いだ平井泰太郎という強烈な個性をもった人物を学生側から理解する手掛かりになり、また経営学という学問の確立過程の中で、その学問の受け手である学生たちが、経営学をどのようにみていたのか、どこに問題や限界を感じていたのか、どのように商学や経済学と比べていたのかなどを考える手掛かりにもなる。教員の人物像や学問の確立過程に落書きを通じて学生側の視点からアプローチすることには、まだ研究の可

能性があるように思われる。さらには、神戸大学でみられたような学生たちの落書きを通じて「心の声」の会話が、他でも確認できる現象であったのか、かつての校風や学生文化とでもいえるものなのかなど、他大学の調査も行うことによって、もう少し大きく捉えることにも研究の可能性があるように思われる。教員と学生との距離感や関係性に迫ることを通じて、大学という場での知の交流を考えることにつながるかもしれない。

最後に課題としては、すでに触れていることではあるが、落書きの定義の精緻化の他、歴史資料としての価値や保存の検討が考えられる。特に蔵書に残された落書きの保存は、歴史資料としての落書きと公共物としての図書館の蔵書との間で考えていかなければならない複雑な問題である。歴史資料としてみれば、何らかの形で保存することが必要になるし、図書館の蔵書の公共性を考えれば、利用者に気持ちよく読んでもらえるように、また新しい落書きや書き込みの呼び水とならないように、落書きを消していくことも必要になる。落書きを残すにしても消すにしても、その定義・価値・保存などを一度しっかりと考えておくことが求められる。

【付記】 今回の調査には、神戸大学経営学部生の紙谷咲彩・五味健太郎・高木裕太・津曲杏奈・子川修都・樋口知士・眞鍋泰自・水田千尋・三輪紫苑・吉住宗晃の諸氏にご協力いただきました。就職活動や卒業論文の作成などがある中で、献身的に調査に取り組んでいただいたことに、心から感謝申し上げます。なお、本報告では、歴史資料として過去の落書きや書き込みを評価していますが、現代社会における公共物や許可を得ない私有物への落書きや書き込みという行為を容認するものではありません。

¹ 蔵書に残されたものではないが、寺院の壁からみつかった落書きが文化財や歴史資料として注目されることもある（「落書き 440 年後に文化財」『朝日新聞』大阪夕刊，2021 年 1 月 23 日）。

² 三上喜孝『落書きに歴史をよむ』吉川弘文館，2014 年，229 頁。

³ 本村凌二『ポンペイ・グラフィティ：落書きに刻むローマ人の素顔』中央公論社，1996 年，220 頁。

⁴ 古沢和宏『痕跡本のすすめ』太田出版，2012 年；古沢和宏『痕跡本の世界：古本に残された不思議な何か』筑摩書房，2015 年。

⁵ 平野・三井・藤田の研究で主に用いられた神戸大学附属社会科学系図書館所蔵の平井泰太郎『経営學入門』千倉書房，1932 年，請求記号 1-1-700，平井泰太郎『経営學通論』千倉書房，1935 年，請求記号 1-1-755，1-1-756，1-1-761 の計 4 冊は，その資料的価値から大学文書史料室に移管することになった。そのため，この 4 冊については，今回の調査対象から除外している。

⁶ 山本安次郎『日本経営学五十年：回顧と展望』東洋経済新報社，1977 年；神戸大学百年史編集委員会編『神戸大学百年史 部局史』神戸大学，2005 年；神戸大学百年史編集委員会編『神戸大学百年史 通史Ⅱ 新制神戸大学史』神戸大学，2010 年；岡部孝好『神戸高商と神戸商大の会計学徒たち：その苦闘と栄光』神戸新聞総合出版センター，2017 年；上林憲雄・清水泰洋・平野恭平編『経営学の開拓者たち：神戸大学経営学部の軌跡と挑戦』中央経済社，2021 年などがある。

⁷ この『経営學入門』について，神戸商業大学時代から同僚として平井泰太郎とともに経営学を担ってきた古林喜楽は，「一読だけしたものは，恐らくつかみどころがないと言うであろう。端的に簡潔に，なぜもっと明確に規定をされないのであろうかと腹立たしさを感じずるであろう。又奔放自在に走る筆ぼうに気を奪われながらも学術的でないと割り切ってし

もうものもある」(古林喜楽「平井経営学の構想:「経営学入門」の再評価」『国民経済雑誌』第102巻第4号, 1960年10月, 20頁)と述べている。

⁸ 平井泰太郎先生追悼記念事業会編『種を播く人』平井泰太郎先生追悼記念事業会, 1974年, 212頁。

⁹ 同上, 70頁。

¹⁰ 同上, 130-131頁。

¹¹ 同上, 152頁。1953年に一橋大学商学部を第1期生として卒業し, 神戸大学経営学部助手として着任した水島一也は, 平井泰太郎の講義について, 大阪「湾岸道路を予言したというんだから。必ずできますと言って。また, つくらなければいけませんって。講義のときにそれをほら吹きまくったんだってね。…中略… もう一つおもしろいのは, 大学へ来るのに, 例えば阪急六甲とか, あそこでタワーをつくって, 横にすればいいように。そういうことまで言うておられた。それで学生は大喜びして, そういう話を」(「神戸大学百年史資料 水島名誉教授インタビュー」作成日時不明, 28頁, 神戸大学大学院経営学研究科所蔵)と語っている。

¹² 平井泰太郎先生追悼記念事業会, 前掲書, 141頁。神戸高等商業学校時代から教員として在籍していた水谷一雄は, 学生からの話として, 「ただ面白い面白いで時間が経って講義が終わってさて何を聴いたか思い出して整理して見ようとしても, どうもまとめるのにとまどいするらしい」(同前, 110頁)と同様の逸話を紹介している。

¹³ 「神戸大学百年史資料 森名誉教授インタビュー」2001年10月1日, 8頁, 神戸大学大学院経営学研究科所蔵。

¹⁴ 例えば, 『神戸経済大学新聞』(第13号, 1947年9月10日)では, 平井泰太郎が, 学生からの質問に答えるとともに, 自身の著書のある頁を読むように指示する様子がみられる。

¹⁵ 平井泰太郎先生追悼記念事業会, 前掲書, 273-274頁。

¹⁶ 同上, 286頁。

¹⁷ 都市空間に書かれた落書きを対象とした研究では, 1つの落書きが呼び水となる可能性が指摘される(大坪国順・渡辺大地「山手線駅周辺での落書きの空間分布と周辺環境との関係」『地球環境学』第7号, 2013年3月, 3頁)。

付表：2023年2月末までに調査を行った蔵書一覧

分類	番号	書名	著者・编者・訳者	出版社	発行年	請求記号	受入年月日	備考	落書き	書き込み	担当
平井	1	産業合理化圖表選 展覽會版	平井泰太郎編	ぐろりあそさえて	1930年	1-1-550	1930年6月25日		×	×	津曲
平井	2	産業合理化圖表選 増訂再版	平井泰太郎編	ぐろりあそさえて	1930年	1-1-565	1930年10月8日		×	×	津曲
平井	3	今日及明日の小賣業	平井泰太郎	高橋製帽所	1931年	1-1-595	1931年3月30日		×	×	津曲
平井	4	商店經營の秘訣	平井泰太郎	高橋製帽所	1931年	1-1-657	1932年1月22日		×	×	津曲
平井	5	經營學入門	平井泰太郎	千倉書房	1932年	1-1-3058	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	平野
平井	6	經營學文獻解説	平井泰太郎編	千倉書房	1932年	1-1-3158//42	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	平野
平井	7	經營學入門	平井泰太郎	千倉書房	1932年	1-1-5745	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	平野
平井	8	經營學の常識	平井泰太郎	千倉書房	1932年	1-1-685	1932年5月6日	参考書印	○	○	五味
平井	9	經營學文獻解説	平井泰太郎編	千倉書房	1932年	1-1-6157//42	1948年7月16日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	10	經營學文獻解説	平井泰太郎編	千倉書房	1932年	1-1-662	1932年2月7日		×	○	津曲
平井	11	經營學文獻解説	平井泰太郎編	千倉書房	1932年	1-1-663	1932年2月7日	参考書印	×	×	津曲
平井	12	經營學文獻解説	平井泰太郎編	千倉書房	1932年	1-1-9396	1981年8月17日		×		津曲
平井	13	簿記教科書	平井泰太郎	三省堂	1932年	1-7-1767	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	14	有機觀對照表學説	シュミット（平井泰太郎監修，山下勝治訳）	同文館	1934年	1-7-3068	1970年10月15日		×	×	津曲
平井	15	有機觀對照表學説	シュミット（平井泰太郎監修，山下勝治訳）	同文館	1934年	1-7-3210	1971年6月29日	教員蔵書	×	○	津曲
平井	16	有機觀對照表學説	シュミット（平井泰太郎監修，山下勝治訳）	同文館	1934年	1-7-408	1935年4月4日		×	×	津曲
平井	17	有機觀對照表學説	シュミット（平井泰太郎監修，山下勝治訳）	同文館	1934年	1-7-5276	1981年8月17日		×	×	津曲
平井	18	經營學通論	平井泰太郎	千倉書房	1935年	1-1-1753	1956年3月10日		○	×	平野
平井	19	經營學通論	平井泰太郎	千倉書房	1935年	1-1-3158//3	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	20	經營形態と會計形態	平井泰太郎	不明	1935年	1-7-491	不明		×	×	津曲
平井	21	アシュレイ經營學概説	平井泰太郎	同文館	1936年	1-1-3059	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	22	アシュレイ經營學概説	平井泰太郎	同文館	1936年	1-1-5465	1971年9月23日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	23	アシュレイ經營學概説	平井泰太郎	同文館	1936年	1-1-5748	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	24	アシュレイ經營學概説	平井泰太郎	同文館	1936年	1-1-809	1936年10月28日		×	○	津曲
平井	25	簿記教科書 改訂版	平井泰太郎	三省堂	1936年	1-7-1768	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	26	簿記教科書 改訂版	平井泰太郎	三省堂	1936年	1-7-434	1936年2月5日		×	○	津曲
平井	27	評價學説の相對的眞實性及び階層性	平井泰太郎	不明	1937年	1-7-512	1937年8月21日		×	×	樋口
平井	28	平井簿記教科書 改訂版	平井泰太郎	三省堂	1937年	1-7-476	1937年4月14日		×	×	津曲
平井	29	平井簿記教科書 改訂版	平井泰太郎	三省堂	1937年	1-7-558	1939年3月6日		×	×	津曲
平井	30	販賣組織の更改と經營機構	平井泰太郎	巖松堂書店	1938年	1-1-2783	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	31	販賣組織の更改と經營機構	平井泰太郎	巖松堂書店	1938年	1-1-5721	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	32	販賣組織の更改と經營機構	平井泰太郎	巖松堂書店	1938年	1-1-903	1938年7月4日		○	○	津曲
平井	33	販賣組織の更改と經營機構	平井泰太郎	巖松堂書店	1938年	1-1-909	1938年10月15日	参考書印	○	○	津曲
平井	34	ロヂスモグラフィアの構想及びその論理	平井泰太郎	不明	1939年	1-7-563	1939年6月16日		×	○	樋口
平井	35	簿記教科書 三訂版	平井泰太郎	三省堂	1939年	1-7-1769	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	36	簿記教科書 三訂版	平井泰太郎	三省堂	1939年	1-7-565	1939年8月21日		×	○	津曲
平井	37	青年學校商業教科書 一卷	平井泰太郎編	教育図書	1941年	1-1-1037//1	1941年6月9日		×	×	津曲
平井	38	青年學校商業教科書 二卷	平井泰太郎編	教育図書	1941年	1-1-1037//2	1941年6月9日		×	×	津曲
平井	39	青年學校商業教科書 三卷	平井泰太郎編	教育図書	1941年	1-1-1037//3	1941年6月9日		×	×	津曲
平井	40	青年學校商業教科書 四卷	平井泰太郎編	教育図書	1941年	1-1-1037//4	1941年6月9日		×	×	津曲

平井	41	青年學校商業教科書 五巻	平井泰太郎編	教育図書	1941年	1-1-1037//5	1941年6月9日		×	×	津曲
平井	42	国防經濟講話	平井泰太郎	千倉書房	1941年	5-3-1632	1941年6月23日		×	×	樋口
平井	43	経営目的の達成と経営構造	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-1312	1950年11月16日	参考書印	○	○	五味
平井	44	経営組織の発展と計算思考	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-1347	1950年2月28日		○	○	樋口
平井	45	経営目的の達成と経営構造	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-1752	1956年3月10日		×	○	樋口
平井	46	経営目的の達成と経営構造	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-2785	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	平野
平井	47	經濟安定と企業経営	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-1360	1950年5月15日		×	×	津曲
平井	48	経営組織の発展と計算思考	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-2784	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	49	経営組織の発展と計算思考	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-1-5744	1972年5月10日	教員蔵書	×	○	津曲
平井	50	企業会計原則批判	平井泰太郎編	國元書房	1950年	1-7-850	1950年9月20日	参考書印	○	×	津曲
平井	51	経営の内部関係と外郭関係	平井泰太郎編	國元書房	1951年	1-1-1452	1951年10月19日	参考書印	○	×	津曲
平井	52	経営の内部関係と外郭関係	平井泰太郎編	國元書房	1951年	1-1-1465	1951年11月5日	参考書印	○	○	津曲
平井	53	経営の内部関係と外郭関係	平井泰太郎編	國元書房	1951年	1-1-1751	1956年3月10日		×	×	津曲
平井	54	経営の内部関係と外郭関係	平井泰太郎編	國元書房	1951年	1-1-2786	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	55	經濟統制の底流	平井泰太郎	東洋經濟新報社	1951年	5-3-2380	1951年5月21日		×	○	樋口
平井	56	経営コンサルタント	平井泰太郎編	東洋書館	1952年	1-1-1485	1952年6月5日		×	×	津曲
平井	57	経営7M	平井泰太郎編	東洋經濟新報社	1952年	1-1-1517	1953年2月10日		×	×	津曲
平井	58	経営コンサルタント	平井泰太郎編	東洋書館	1952年	1-1-2787	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	59	経営7M	平井泰太郎編	東洋經濟新報社	1952年	1-1-7293	1953年3月15日		×	×	津曲
平井	60	経営7M	平井泰太郎編	東洋經濟新報社	1952年	1-1-9315	1981年8月17日		×	×	津曲
平井	61	會社經理	平井泰太郎編	森山書店	1952年	1-7-1013	1952年7月14日		×	×	津曲
平井	62	會社經理	平井泰太郎編	森山書店	1952年	1-7-3056	1970年10月15日		×	×	津曲
平井	63	伊丹の工業と商業	平井泰太郎・米花稔・荒川祐吉	神戸大学経営研究会	1953年	1-8-334	1954年1月25日		×	×	津曲
平井	64	伊丹の工業と商業	平井泰太郎・米花稔・荒川祐吉	神戸大学経営研究会	1953年	1-8-595	1962年3月31日		×	×	津曲
平井	65	ビジネス・リーダーシップ	R・A・ゴードン（平井泰太郎・森昭夫訳）	東洋經濟新報社	1954年	1-1-1775	1956年5月18日		×	×	樋口
平井	66	オートメーションによって経営はどう変わるか	ダイヤモンド社編	ダイヤモンド社	1956年	1-1-1811	1956年11月20日		○	×	津曲
平井	67	オートメーションによって経営はどう変わるか	ダイヤモンド社編	ダイヤモンド社	1956年	1-1-2985	1957年7月10日		×	×	津曲
平井	68	オートメーションによって経営はどう変わるか	ダイヤモンド社編	ダイヤモンド社	1956年	1-1-7325	1956年11月12日		×	×	津曲
平井	69	株式會社の法理論と實際	大阪株式事務懇談会編	有斐閣	1957年	3-3-863	1957年10月5日		×	×	樋口
平井	70	第四の旅	平井泰太郎	不明	1957年	1-1-1983	1958年2月20日		×	×	津曲
平井	71	株式會社法改正の基本理念および構想	平井泰太郎	不明	1957年	1-1-2175	1959年3月30日		×	×	津曲
平井	72	株式會社法改正の基本理念および構想	平井泰太郎	不明	1957年	3-1-1315	1957年11月20日		×	×	津曲
平井	73	経営構造の進展と経営学の対象	平井泰太郎	神戸大学経営学部	1958年	1-1-2198	1959年5月30日		×	○	樋口
平井	74	経営構造の進展と経営学の対象	平井泰太郎	神戸大学経営学部	1958年	1-1-2199	1959年5月30日		○	○	津曲
平井	75	水島鉄也	平井泰太郎	日本經濟新聞社	1959年	6-4-787	1959年3月30日		○	○	五味
平井	76	トップ・マネジメントの組織	平井泰太郎・菅谷重平・山城章	ダイヤモンド社	1961年	1-1-2500//2	1961年5月15日		×	○	五味
平井	77	この壁を破れ	平井泰太郎	日本事務能率協会	1961年	1-1-7163	1976年9月10日	教員蔵書	×	×	津曲
平井	78	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-5886	1972年9月16日		×	×	津曲
平井	79	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-5887	1972年9月16日		×	×	津曲
平井	80	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-5888	1972年9月20日		×	×	津曲
平井	81	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-5889	1972年9月20日		×	×	津曲
平井	82	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-5890	1972年9月25日		×	×	津曲
平井	83	平井泰太郎経営学論集	神戸大学経営学研究室編	千倉書房	1972年	1-1-6127	1973年6月12日		×	×	津曲
平井	84	生産性向上とオートメーション	平井泰太郎	日本學術振興会	不明	1-1-1851	1957年3月20日		×	×	樋口

福田	1	經濟的豫見とその限界	福田敬太郎	不明	1923年	5-3-481	1926年4月6日		×	○	眞鍋
福田	2	經濟的豫見とその限界	福田敬太郎	不明	1923年	5-3-482	1926年4月6日		×	×	眞鍋
福田	3	經濟的豫見とその限界	福田敬太郎	不明	1923年	5-3-483	1926年4月6日		×	×	眞鍋
福田	4	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-1-3158//12	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	眞鍋
福田	5	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-1-6157/12	1948年7月16日	教員蔵書	×	×	眞鍋
福田	6	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-5-281	1930年4月2日		×	○	眞鍋
福田	7	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-5-294	1930年7月10日		×	×	眞鍋
福田	8	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-5-295	1930年7月10日		×	×	眞鍋
福田	9	市場論	福田敬太郎	千倉書房	1930年	1-5-898	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	眞鍋
福田	10	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1931年	1-1-621	1931年11月27日		×	○	高木
福田	11	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1931年	1-1-6157//39	1948年7月16日	教員蔵書	×	×	高木
福田	12	市場政策原理	福田敬太郎	春陽堂	1932年	1-5-320	1932年10月5日		×	○	眞鍋
福田	13	市場政策原理	福田敬太郎	春陽堂	1932年	1-5-665	1962年3月31日		×	○	眞鍋
福田	14	市場政策原理	福田敬太郎	春陽堂	1932年	1-5-855	1970年10月15日		×	×	眞鍋
福田	15	中央卸賣市場の職能に関する一考察	福田敬太郎	神戸商業大学商業研究所	1932年	5-1-68//59	1933年4月24日		×	×	眞鍋
福田	16	中央卸賣市場の職能に関する一考察	福田敬太郎	神戸商業大学商業研究所	1932年	5-1-69//59	1933年4月24日		×	×	眞鍋
福田	17	證券市場論	福田敬太郎	東洋出版社	1935年	1-1-3159//22	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	眞鍋
福田	18	證券市場論	福田敬太郎	東洋出版社	1935年	1-2-1123	1935年7月17日		×	○	眞鍋
福田	19	證券市場論	福田敬太郎	東洋出版社	1935年	1-2-1124	1935年7月15日		×	○	眞鍋
福田	20	證券市場論	福田敬太郎	東洋出版社	1935年	1-5-667	1962年3月31日		×	×	眞鍋
福田	21	證券市場論	福田敬太郎	東洋出版社	1935年	1-5-865	1971年6月29日		×	×	眞鍋
福田	22	取引所論	福田敬太郎	千倉書房	1938年	1-1-3148//8	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	高木
福田	23	取引所論	福田敬太郎	千倉書房	1938年	1-5-388	1938年4月9日		×	×	高木
福田	24	取引所論	福田敬太郎	千倉書房	1938年	1-5-391	1938年4月18日		×	○	高木
福田	25	取引所論	福田敬太郎	千倉書房	1938年	1-5-901	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	高木
福田	26	商業概論 新訂版	福田敬太郎	千倉書房	1939年	1-1-940	1939年3月14日		×	○	高木
福田	27	商業概論 新訂版	福田敬太郎	千倉書房	1939年	1-1-992	1940年5月1日		×	×	高木
福田	28	商業概論 新訂版	福田敬太郎	千倉書房	1939年	1-1-3158//39	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	高木
福田	29	株式相場統制	福田敬太郎	千倉書房	1941年	1-5-417	1941年6月30日	参考書印	×	×	眞鍋
福田	30	株式相場統制	福田敬太郎	千倉書房	1941年	1-5-466	1954年11月20日		×	×	眞鍋
福田	31	株式相場統制	福田敬太郎	千倉書房	1941年	1-5-669	1962年3月31日		×	○	眞鍋
福田	32	株式の投資価値並に市場価格の分析による投機統制の原理に関する研究 第一編	福田敬太郎	不明	1941年	1-5-674//1	1962年3月31日		×	×	眞鍋
福田	33	株式の投資価値並に市場価格の分析による投機統制の原理に関する研究 第二編	福田敬太郎	不明	1941年	1-5-674//2	1962年3月31日		×	×	眞鍋
福田	34	株式相場統制	福田敬太郎	千倉書房	1941年	1-5-900	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	眞鍋
福田	35	國民食糧	福田敬太郎	千倉書房	1942年	5-3-1880	1943年10月9日		×	×	高木
福田	36	國民食糧	福田敬太郎	千倉書房	1942年	5-3-3553	1962年3月31日		×	×	高木
福田	37	國民食糧	福田敬太郎	千倉書房	1942年	5-3-6551	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	高木
福田	38	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1943年	1-1-1169	1944年2月15日		×	×	高木
福田	39	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1943年	1-1-1178	1944年4月20日		×	×	高木
福田	40	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1943年	1-1-1578	1953年11月5日	教員蔵書	×	×	高木
福田	41	商業概論	福田敬太郎	千倉書房	1943年	1-1-5731	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	高木
福田	42	配給論	福田敬太郎	同文館	1948年	1-1-1269	1948年11月27日	参考書印	○	○	平野
福田	43	證券市場論	福田敬太郎	ダイヤモンド社	1949年	1-5-670	1962年3月31日		×	×	平野
福田	44	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-448	1950年11月16日	参考書印	×	○	眞鍋

福田	45	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-449	1950年12月6日		○	○	眞鍋
福田	46	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-452	1951年2月15日		×	×	眞鍋
福田	47	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-470	1956年12月18日		×	×	眞鍋
福田	48	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-671	1962年3月31日		×	×	平野
福田	49	市場論	福田敬太郎	春秋社	1950年	1-5-672	1962年3月31日		×	×	平野
福田	50	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1544//1	1953年10月5日	参考書印	×	×	高木
福田	51	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1544//2	1953年10月5日	参考書印	×	×	平野
福田	52	現代商學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1544//3	1953年10月5日	参考書印	×	○	平野
福田	53	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1545//1	1953年10月5日	参考書印	×	×	高木
福田	54	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1545//2	1953年8月5日	参考書印	×	×	平野
福田	55	現代商學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1545//3	1953年8月5日	参考書印	×	×	平野
福田	56	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1550//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	57	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1550//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	58	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1551//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	59	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1551//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	60	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1552//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	61	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1552//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	62	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1553//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	63	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1553//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	64	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1554//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	65	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1554//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	66	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1555//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	67	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1555//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	68	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1556//1	1953年8月5日		×	×	高木
福田	69	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1556//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	70	現代経営學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1557//1	1953年10月5日		×	×	高木
福田	71	現代會計學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1557//2	1953年10月5日		×	×	平野
福田	72	現代商學の課題	福田敬太郎編	森山書店	1953年	1-1-1557//3	1953年10月5日		×	○	平野
福田	73	市場論 新版	福田敬太郎	春秋社	1953年	1-5-673	1962年3月31日		×	×	平野
服部	1	中世哲學の精神 上巻	ジルソン（服部英次郎訳）	三省堂	1944年	11-1-1507	1944年7月24日		×	×	紙谷
服部	2	聖アウグスティヌスとその時代	クリストファ・ドウソン（服部英次郎訳）	増進堂	1946年	11-4-1153	1947年1月13日		×	×	紙谷
服部	3	聖アウグスティヌスとその時代	クリストファ・ドウソン（服部英次郎訳）	増進堂	1946年	11-4-1355	1954年6月10日		×	×	紙谷
服部	4	デカルト	H・ルフェーヴル（服部英次郎・青木靖三訳）	岩波書店	1953年	11-1-2063	1953年12月7日		×	×	紙谷
宮田	1	貨幣國定學説	クナッパ（宮田喜代蔵訳）	岩波書店	1922年	1-2-2460	1962年3月31日		×	×	紙谷
宮田	2	貨幣國定學説	クナッパ（宮田喜代蔵訳）	岩波書店	1922年	1-2-405	1923年1月31日		×	○	吉住
宮田	3	貨幣國定學説	クナッパ（宮田喜代蔵訳）	岩波書店	1922年	1-2-407	1923年2月9日		×	×	吉住
宮田	4	リーフマン經濟學原論	リーフマン（宮田喜代蔵訳）	同文館	1927年	5-2-409	1927年11月30日		×	×	水田
宮田	5	リーフマン經濟學原論	リーフマン（宮田喜代蔵訳）	同文館	1927年	5-2-445	1928年9月11日		×	×	水田
宮田	6	經營原理	宮田喜代蔵	春陽堂	1931年	1-1-3105	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	吉住
宮田	7	名古屋高等商業學校創立第拾周年記念論文集	名古屋高等商業學校創立第拾周年記念論文集編輯委員編	名古屋高等商業學校創立第拾周年記念論文集編輯委員	1931年	5-1-234	1932年3月30日		×	×	吉住
宮田	8	平價切下論	宮田喜代蔵	日本評論社	1934年	1-2-1178	1936年5月14日		×	○	水田
宮田	9	商學論集	内池博士記念論文集刊行会編	同文館	1938年	1-1-1750	1956年2月27日		×	○	紙谷
宮田	10	商學論集	内池博士記念論文集刊行会編	同文館	1938年	1-1-2702	1962年3月31日		×	×	紙谷

宮田	11	經營と經濟との基本關係	宮田喜代蔵	金融研究会	1938年	1-1-3009	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	吉住
宮田	12	商學論集	内池博士記念論文集刊行会編	同文館	1938年	1-1-5729	1972年5月10日	教員蔵書	×	×	紙谷
宮田	13	經營と經濟との基本關係	宮田喜代蔵	金融研究会	1938年	1-1-891	1938年4月9日		×	○	吉住
宮田	14	商學論集	内池博士記念論文集刊行会編	同文館	1938年	1-1-899	1938年5月25日		×	×	紙谷
宮田	15	貨幣論	宮田喜代蔵	平野書店	1938年	1-2-4168	1974年5月15日		×	×	水田
宮田	16	貨幣論	中山伊知郎・東畑精一編	日本評論社	1940年	5-1-1094//20	1962年3月31日		×	×	紙谷
宮田	17	貨幣の生活理論	宮田喜代蔵	日本評論社	1941年	1-2-1500	1941年3月10日		×	○	水田
宮田	18	貨幣の生活理論	宮田喜代蔵	日本評論社	1941年	1-2-1501	1941年3月10日		×	○	水田
宮田	19	貨幣の生活理論	宮田喜代蔵	日本評論社	1941年	1-2-2517	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	紙谷
宮田	20	貨幣の生活理論	宮田喜代蔵	日本評論社	1941年	1-2-3896	1973年5月10日	教員蔵書	×	×	紙谷
宮田	21	國家經濟學の立場	宮田喜代蔵	甲文堂書店	1943年	5-2-1014	1943年12月14日		×	○	水田
宮田	22	國家經濟學の立場	宮田喜代蔵	甲文堂書店	1943年	5-2-1563	1953年11月5日		×	×	水田
宮田	23	再開貿易の形態とその將來	神戸金融經濟研究会（宮田喜代蔵関）	青門社書房	1947年	1-10-411	1947年11月10日		×	×	吉住
宮田	24	再開貿易の形態とその將來	神戸金融經濟研究会（宮田喜代蔵関）	青門社書房	1947年	1-10-412	1947年11月10日		×	×	平野
宮田	25	平價切下の理論	宮田喜代蔵	黎明書房	1947年	1-2-1628	1947年10月15日		×	○	水田
宮田	26	インフレーションと平價切下	宮田喜代蔵	水谷書房	1947年	1-2-1629	1947年11月4日		×	×	水田
宮田	27	平價切下の理論	宮田喜代蔵	黎明書房	1947年	1-2-1632	1947年12月7日		×	×	紙谷
宮田	28	インフレーションと平價切下	宮田喜代蔵	水谷書房	1947年	1-2-1633	1947年12月7日		×	×	水田
宮田	29	平價切下の理論	宮田喜代蔵	黎明書房	1947年	1-2-1729	1948年3月25日		×	×	紙谷
宮田	30	通貨改革と平價切下	宮田喜代蔵	毎日新聞社	1948年	1-2-1658	1948年7月26日		×	×	紙谷
宮田	31	經營合理化的原理	宮田喜代蔵	黎明書房	1949年	1-1-1317	1949年10月24日		×	×	吉住
宮田	32	通貨安定論	宮田喜代蔵	理想社	1949年	1-2-1684	1949年5月30日		×	×	水田
宮田	33	通貨安定論	宮田喜代蔵	理想社	1949年	1-2-2518	1962年3月31日	教員蔵書	×	○	水田
宮田	34	デフレーション	宮田喜代蔵	弘文堂	1950年	1-2-2519	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	紙谷
宮田	35	國際經濟 普及版	宮田喜代蔵編	河出書房	1952年	5-1-1131//8	1952年11月17日		×	×	紙谷
宮田	36	國際經濟 普及版	宮田喜代蔵編	河出書房	1952年	5-1-1270//8	1952年11月17日		×	×	紙谷
宮田	37	國際經濟 特装版	宮田喜代蔵編	河出書房	1952年	5-1-1509//8	1952年11月17日		×	×	紙谷
宮田	38	國際經濟 特装版	宮田喜代蔵編	河出書房	1952年	5-1-656//8	1952年11月24日	参考書印	×	○	紙谷
宮田	39	國際經濟 特装版	宮田喜代蔵編	河出書房	1952年	5-1-720//8	1954年2月15日		×	×	吉住
宮田	40	經濟原論	宮田喜代蔵	同文館	1953年	5-2-1544	1953年9月28日		×	×	水田
宮田	41	經濟原論	宮田喜代蔵	同文館	1953年	5-2-1545	1953年9月28日		×	×	水田
宮田	42	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-1-726	1954年8月10日		×	×	紙谷
宮田	43	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-1-729	1954年8月31日		×	×	紙谷
宮田	44	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-1-730	1954年9月10日		×	×	紙谷
宮田	45	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-3-3889	1962年3月31日	教員蔵書	×	×	吉住
宮田	46	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-3-4152	1963年10月14日		×	×	吉住
宮田	47	アジア經濟の現勢と日本	宮田喜代蔵編	森山書店	1954年	5-3-4153	1963年10月14日		×	×	吉住

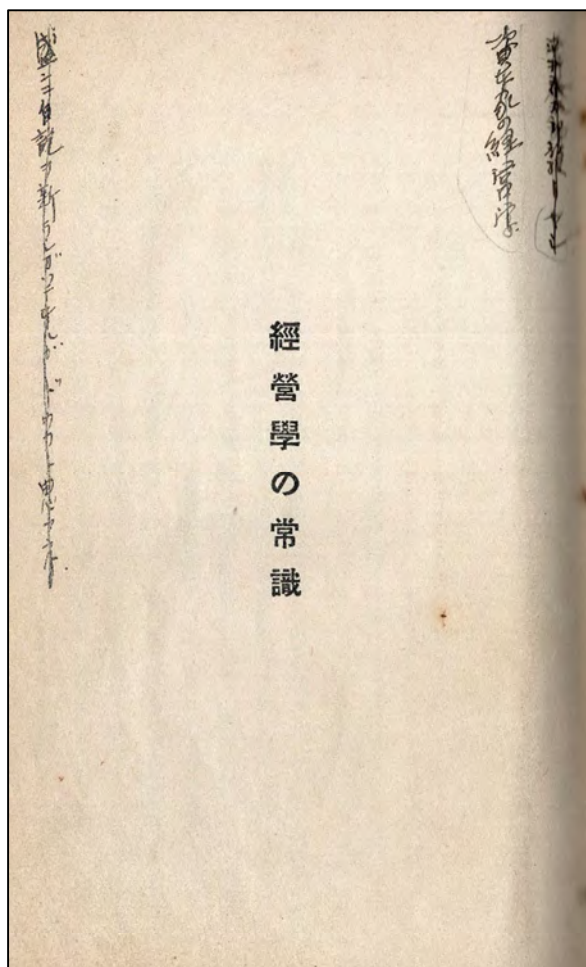
（注）備考欄の「教員蔵書」は、謹呈の記載、蔵書印、寄贈印などから、教員の蔵書であったことが明らかに分かるものである。

付 属 資 料

《 凡 例 》

- ・ 資料番号は，〔教員名〕－〔著書・訳書番号〕－〔通し番号〕としている。
- ・ 著書・訳書番号は，付表「2023年2月末までに調査を行った蔵書一覧」の番号に対応している。
- ・ 1冊の著書・訳書にみられるすべての落書きや書き込みを載せているわけではなく，主たるものを選択して掲載している。
- ・ 翻刻に際して，適宜改行は改めたが，表記は原資料の通りとした。
- ・ 判読が困難な箇所は，□で示した。
- ・ 参考のため，原資料の画像を付している。

資料番号	平井-8-1
------	--------



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	經營學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

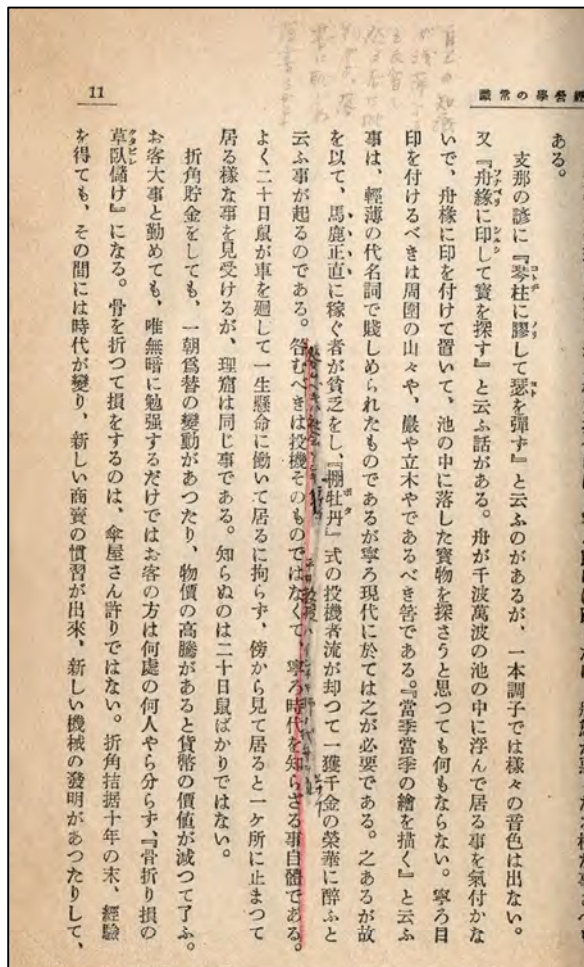
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	
場所	①余白右上 ②余白左
備考	①黒ペン書き（取り消し線） ②黒ペン書き（取り消し線）

翻刻	① 平井泰太郎教授□□□ 資本家の経営学 ② 盛ンニ自説ヲ新ラシガツテキルガドウカト思フネ。
----	--

解説	②は、平井泰太郎が著書で展開する自説をやや否定的に捉えた者による落書きとみられる。
----	--

担当	五味健太郎
----	-------



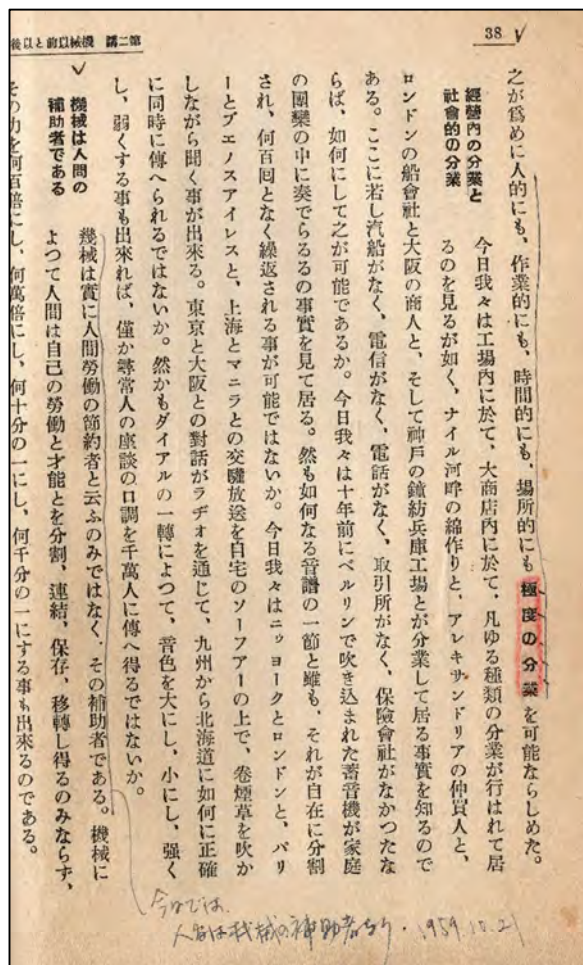
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	11頁
場所	①文中 ②余白上
備考	①黒ペン書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① 谷ムベキハ社会ソシキデナク 平井教授ハインチキ師ノ代弁ヲ□□□ ② 自己の知識が浅薄なるを反省し然る後に批判せよ。落書に恥じぬ落書をせよ
----	--

解説	①は、平井泰太郎を「インチキ師」の代弁者とみなしているように読み取ることができる。②は、平井泰太郎に対するネガティブな落書きに対して、別の人物がその浅はかさを指摘している。また、落書きが広く受け入れられていたとみられる一文が見受けられることも興味深い。
----	---



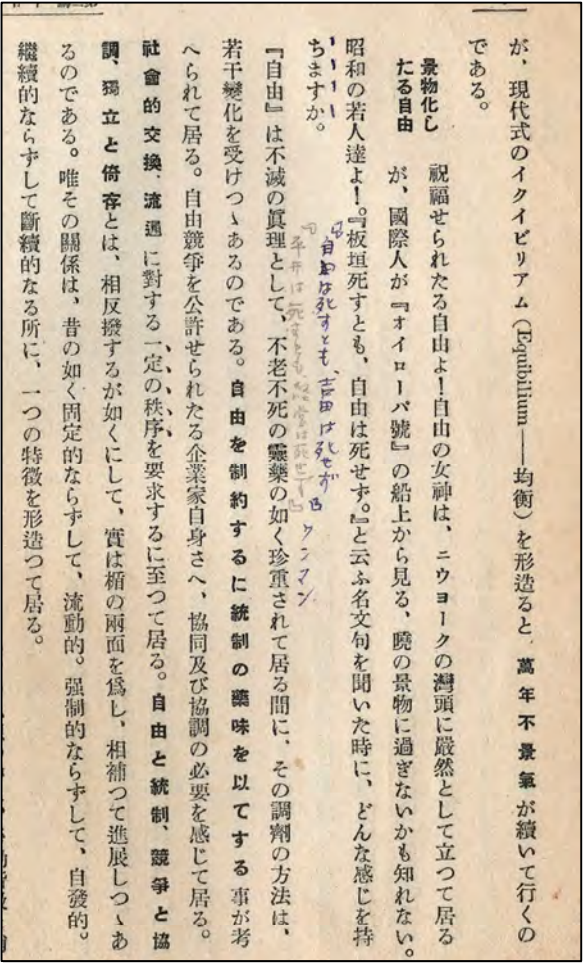
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	經營學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	38頁
場所	①余白下
備考	①黒ペン書き

翻刻	① 今日では 人間は機械の補助者なり。1959.10.21
----	----------------------------------

解説	①は、本文での「幾械は實に人間労働の節約者と云ふのみではなく、その補助者である」という平井泰太郎の主張に対して感想を書いたものである。
----	---



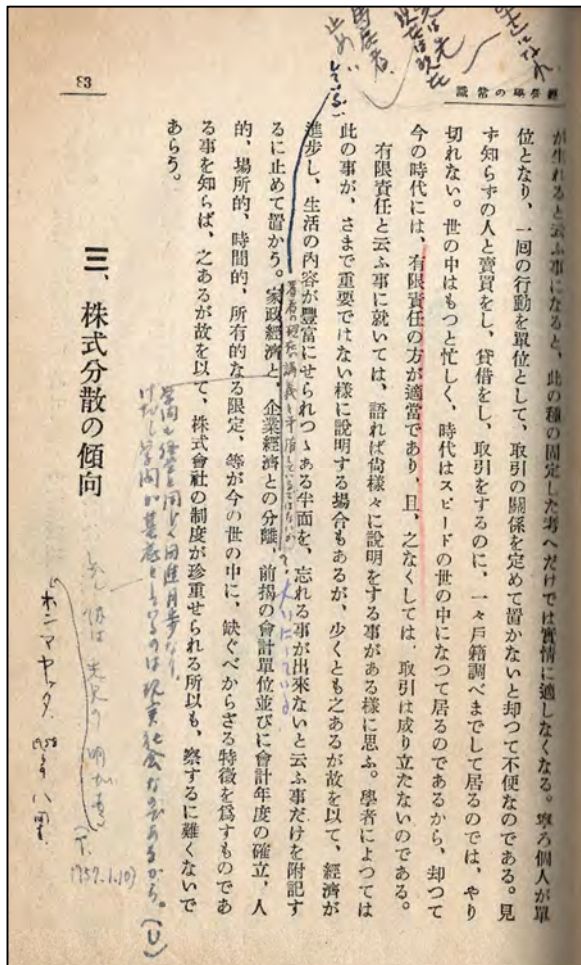
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	60頁
場所	①文中 ②文中
備考	①黒鉛筆書き ②青ペン書き

翻刻	① 『平井は死すとも、経営は死せず』 ② 『自由は死すとも、吉田は死せず』ワンマン
----	--

解説	①は、平井泰太郎を好意的にみる者が、「板垣死すとも、自由は死せず」にかけて経営学の永続性を書いたとみられる。②は、「吉田」が誰を指すのかは不明であるが、落書きが主に書かれた時期の内閣総理大臣であった吉田茂を指しているのかもしれない。
----	--



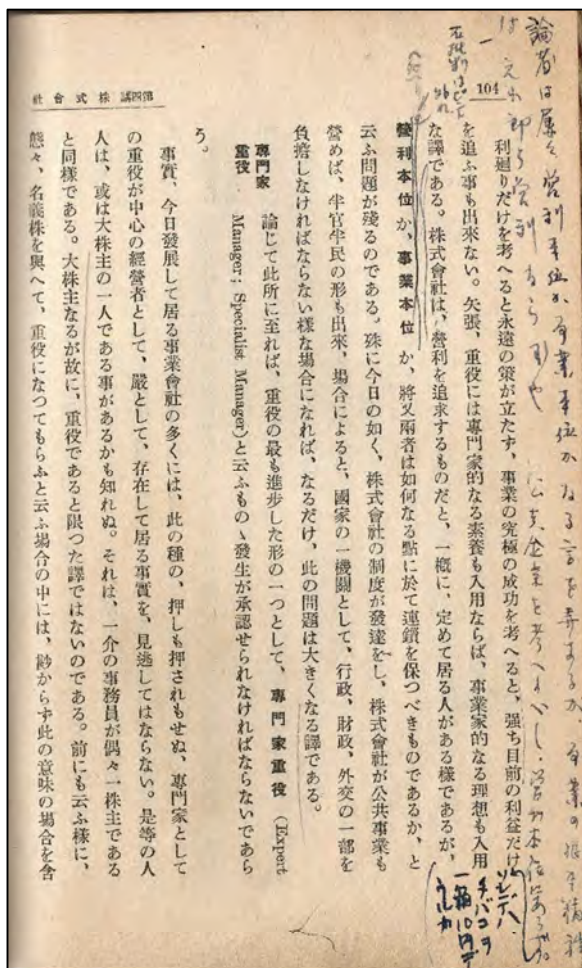
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	83頁
場所	①文中 ②文中 ③余白左 ④余白左 ⑤余白左 ⑥余白上 ⑦余白上 ⑧余白右上
備考	①黒ペン書き ②青ペン書き ③黒ペン書き ④青ペン書き ⑤黒ペン書き ⑥黒ペン書き ⑦黒ペン書き ⑧黒ペン書き

翻刻	① 著者の現在の講義と矛盾しているではないか？ ② 大いにしている ③ 学問も経営と同じく日進月歩なり。 けだし学問が基底としているのは現実社会なのであるから。(U) ④ しかし彼は先見の明がある (T. 1957.1.10) ⑤ ホニマヤッタ 1958.6.9 八回生 ⑥ していない ⑦ 馬鹿者止めい ⑧ 先は先 現在は現在
----	--

解説	①の平井泰太郎の著書の内容と講義の内容の矛盾を主張する落書きに端を発している。②や⑥のように、賛否を示す落書きがある。その中で、③は、学問は進歩するため、過去の著書の内容と現在の講義の内容が食い違っていることに理解を示す落書きもみられる。歴史の浅かった経営学であれば、その傾向はより顕著であつたと思われる。④や⑤は、後に別の者が③に対して経営学の進歩を実感して書いたものとみられる。数年の時を隔てて、落書きによる「会話」が行われていたようにみえる。
----	---



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	104頁
場所	①余白右 ②余白右下 ③余白右上 ④余白左上
備考	①黒ペン書き ②黒ペン書き ③黒ペン書き ④黒鉛筆書き

翻刻	① 論者は屢々、営利本位か事業本位かなる言を弄するが、事業の根本精神は之れ即ち営利ならずや 公共企業を考えるべし。営利本位にあらず。 ② ソレデハタバコ一箱10円デウルカ ③ 右批判はピント外れ。 ④ (然り)
----	---

解説	①は、公的企業を例に挙げて、事業が必ずしも営利本位だけではないことを主張する落書きである。平井泰太郎の主張に対して批判的ではあるが、②や③のように、それに対する別の者による反論もみられる。平井泰太郎が著書で提示した問いに対して、落書きを通じて論争が起きていたことを示すものであり、当時の学生たちの学問に向き合う熱心さがうかがえる。
----	--



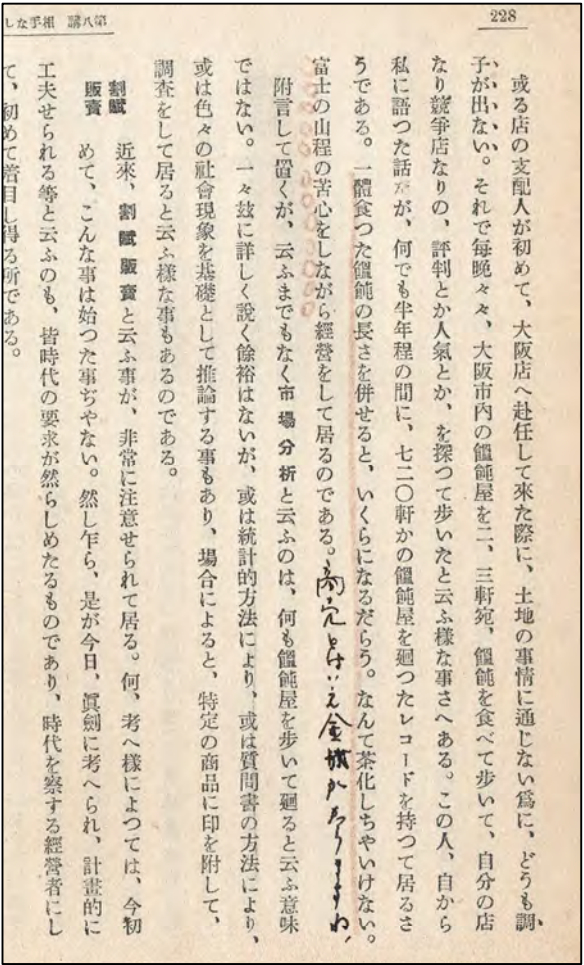
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	132頁
場所	①余白右上
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 平井教授の人生観なり
----	--------------

解説	①は、文中の「水の如く流れて」の「て」を消して「る」と横に書いた「水の如く流れる」を平井泰太郎の人生観としている。平井泰太郎の人柄を知る者による落書きなのか、講義での話から想像しての落書きなのかは不明である。
----	--



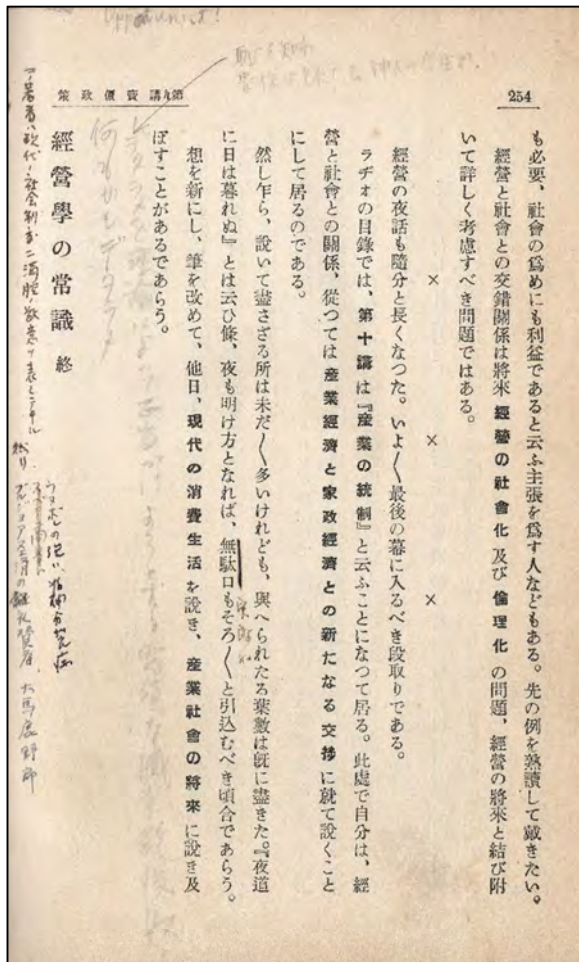
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	經營學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	228頁
場所	①文中
備考	①黒ペン書き

翻刻	① 商売とはいへ金銭がかかりますね。
----	--------------------

解説	①は、著書の内容への同意・共感を表す感想を書いている。
----	-----------------------------



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営學の常識
出版社	千倉書房
出版年	1932年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-685
受入日	1932年5月6日

記載情報	
頁数	254頁
場所	①余白左 ②余白上 ③余白左上 ④余白左上 ⑤余白左 ⑥余白左 ⑦余白左
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き ③黒鉛筆書き ④黒ペン書き ⑤黒ペン書き ⑦黒ペン書き ⑥黒ペン書き (取り消し線)

翻刻	① デタラメを理論によつて正当づけようとする露骨な職業教授奴！ 何もかもデタラメ ② 恥を知れ 貴様はそれでも神大の学生か。 ③ Opportunist! ④ コノ著者ハ現代ノ社会制度ニ満腔ノ敬意ヲ表シテキル ⑤ 然り。ウヌボレの強い精神分裂症 ⑥ スベテ商売 ⑦ ブルジョア経済の礼賛者。大馬鹿野郎
----	---

解説	①は、「職業教授」という呼称によって、経営学の商売気のある側面やそれを教える平井泰太郎に対する不信感を表している。②は、①のネガティブな内容に対する別の者による否定であり、攻撃性もしくは理解力のなさに対する嘆きとも取ることができる。③は、平井泰太郎のことかもしれないが、誰を指して日和見主義者と書いたのかは明らかではない。④から⑦までは、著書の最後に書かれた落書きであることから、読後感のようなものであるとみられるが、総じて平井泰太郎に否定的であり、批判的なコメントを残している。
----	---

資料番号	平井-18-1
------	---------

あらう。この種の近代的なる経営者を呼んで、専門家の経営者 (Expert Manager) と稱する得るのである。 の事業経営に、この種専門家の経営者を要求せらるゝに至つたと言ふことは、産業革命の結果が、して産業界の各般の事業、社会の各側面、而して世界の汎ゆる隅々に迄到徹したと言ふことに基く る。即ち、嘗ては一事業に於て、俄かに機械動力の採用、又は新しき工夫に成れる技術を利用すれ の事業に於て、未だ之を知らざることの結果、容易にその効果を擧ぐることを得たのである。勞務 、從來の徒弟制度の觀念と『醇風美俗』とに依つて、善意且つ善良に協力するに拘らず、惡辣なる 即經營者が、欺瞞と陥穿とを用意して、彼等を陥入るゝと言ふ様なことが度重つてくるにつれて、 が却つて彼等の自覺と義憤とを買ひ、昂じては奮激と反抗とを以て之に酬いると言ふことが起つて 一時の矯激なる社会思想と、勞働者運動とを生じたのはこの時期である。 然るに今や全ての方面に於て、新しき産業制度は理解せられたるが故に、徒 の自主化と機 としての經營者 らなる目の子算用と、單純なる思ひ付とを以てしては事業の經營を行ひ得ざ るに至つたのである。勞働者運動も亦、理解と公正とを基礎として、平穩合 組織化せられ、社会國家も亦、新しき産業立法に依つて、健全なる事業經營の進展を助くと言ふ なつて來たのである。従つて、時代の經營者としては、正確なる知識と、犀利なる見識とを以て、	— 55 —
---	---------------

書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	經營學通論
出版社	千倉書房
出版年	1935年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1753
受入日	1956年3月10日

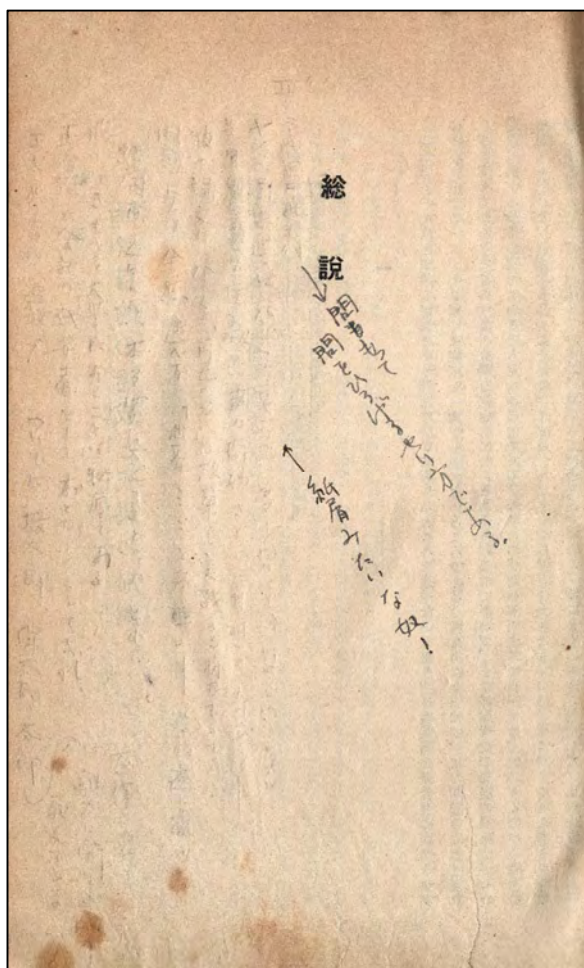
記載情報	
頁数	55頁
場所	①文中 ②文中
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① 17C的□□ ② なんとアタマが古いことか！！アホメ！！
----	--

解説	①は、文中の「醇風美俗」を指して書かれたものである。戦前までの国民強化政策や労働政策の指針となった価値観を批判したものと思われる。
----	--

担当	平野恭平
----	------

資料番号	平井-43-1
------	---------



書誌情報	
------	--

著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
------	--

所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1312
受入日	1950年11月16日

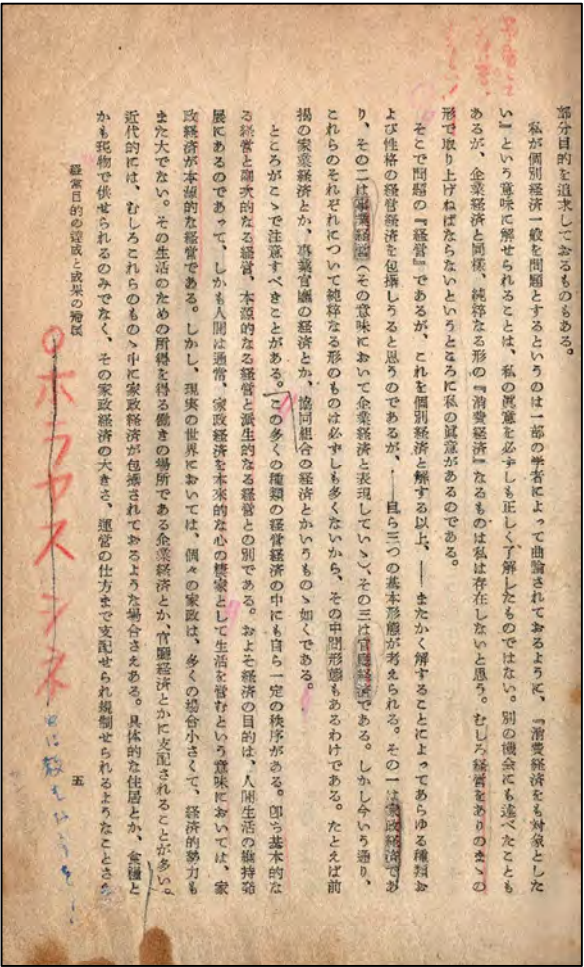
記載情報	
------	--

頁数	平井泰太郎執筆箇所
場所	①余白中央 ②余白中央
備考	①黒ペン書き ②黒ペン書き

翻刻	① →問をもって問をひろげるやり方である。 ② ←紙屑みたいな奴！
----	--------------------------------------

解説	この頁の左半分には、黒鉛筆で書かれた落書きがあったようであるが、すでに消されて判読できなくなっている。①と②は、その落書きに対するコメントとして書かれたものであるが、黒ペンで書かれていたために消されずに残っている。
----	---

担当	五味健太郎
----	-------



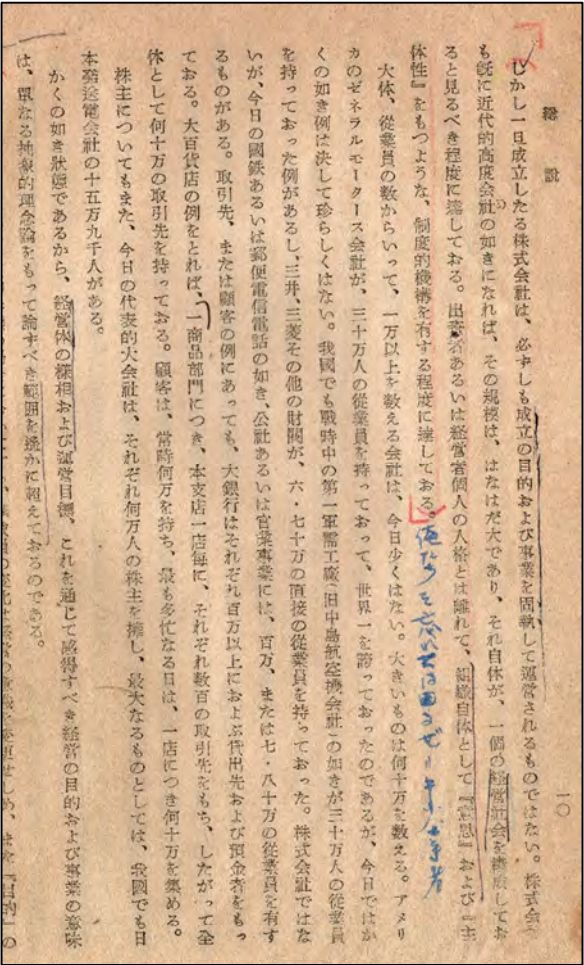
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1312
受入日	1950年11月16日

記載情報	
頁数	5頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①余白右上 ②余白左 ③余白左下 ④余白左下
備考	①赤鉛筆書き ②赤鉛筆書き（取り消し線） ③青ペン書き ④黒鉛筆書き

翻刻	① 矛盾していないぞ。よろしい！ ② ○ホラヤスシネ ③ とは殺生な事を！ ④ カンニンシテ
----	---

解説	①は、平井泰太郎が「経営をありのまゝの形で取り上げねばならないというところに私の真意がある」という点を肯定して書かれたものとみられる。それとは関係なく、②からは、平井泰太郎に極めて否定的な感情を抱いていた者もいたことがうかがえる。③は、②に続ける形で書かれており、④も含めて、②を茶化するような落書きになっている。平井泰太郎を支持する者と平井泰太郎を否定する者とが紙面上の落書きでぶつかり合っていた様子も垣間みえる。
----	--



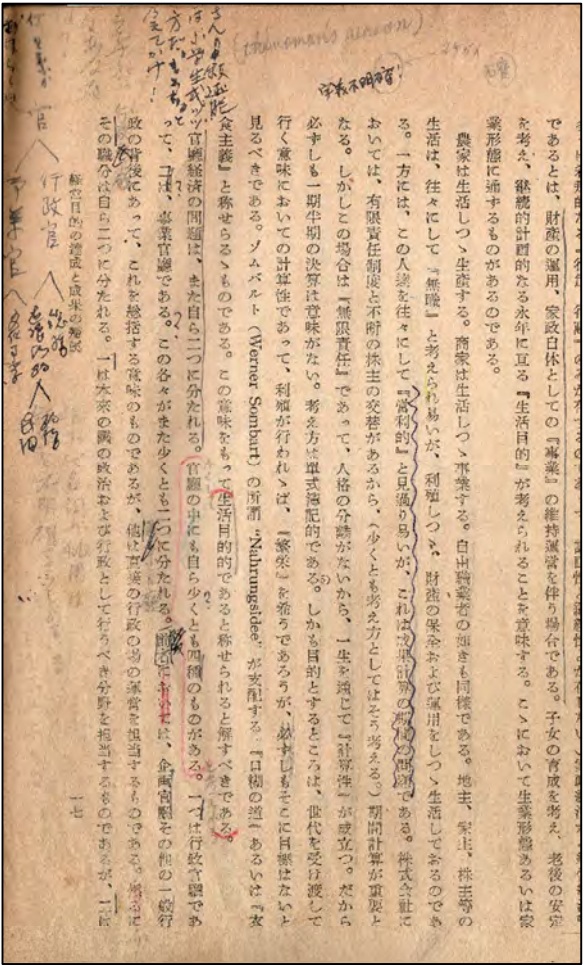
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1312
受入日	1950年11月16日

記載情報	
頁数	10頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中
備考	①青ペン書き

翻刻	① 俺たちを忘れては困るぜ=□小企業者
----	---------------------

解説	①は、平井泰太郎の主張とは異なる見解をもつ者が自らの存在をアピールしようとした落書きといえる。
----	---



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

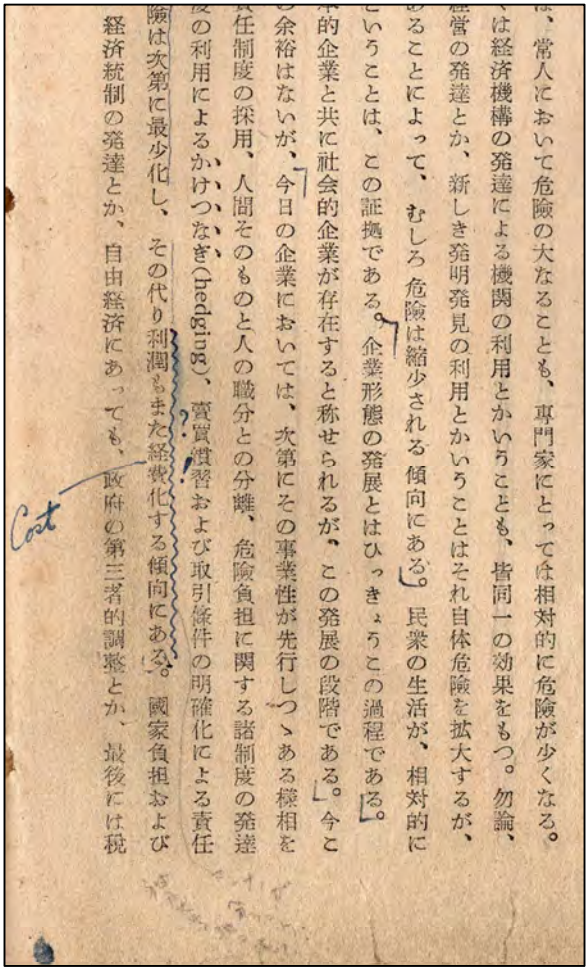
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1312
受入日	1950年11月16日

記載情報	
頁数	17頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①余白左 ②余白上 ③余白右上 ④余白上 ⑤余白上 ⑥余白左上 ⑦余白左上 ⑧余白左
備考	①黒鉛筆書き ②黒ペン書き ③黒鉛筆書き ④黒鉛筆書き ⑤黒ペン書き ⑥黒鉛筆書き ⑦黒ペン書き ⑧黒ペン書き

翻刻	① 指示代名詞の乱用は□□を不明確ならしめている ② 字義不明確！ ③ ←マチガイ 確 ④ (the woman's reason) ⑤ □さんの叙述能□は小学生式ツツ□方だ。もうちょっと考えてかけ！ ⑥ □ですか、□はあなたは？ ⑦ 何を云ふかあほらしい ⑧ 官-行政官-総括 直接行政-政治 民間 事業官-文化事業 □□□□
----	--

解説	①と②は、文中に「？」や線引きなどが散見されているように、文章が分かりにくいことを指摘している。⑤は、分かりにくい文章を書く平井泰太郎の能力を批判するものであるが、著書の上部が切断されているため、文字を正確に判読することはできない。⑤に端を発して、平井泰太郎を擁護する者とそうではない者が落書きをもって応酬している様子が見え隠れする。また、平井泰太郎の考える官庁行政の区分が彼の独特なもので分かりづらいことから、⑧は、それを整理したものとなっている。
----	---

資料番号	平井-43-5
------	---------



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

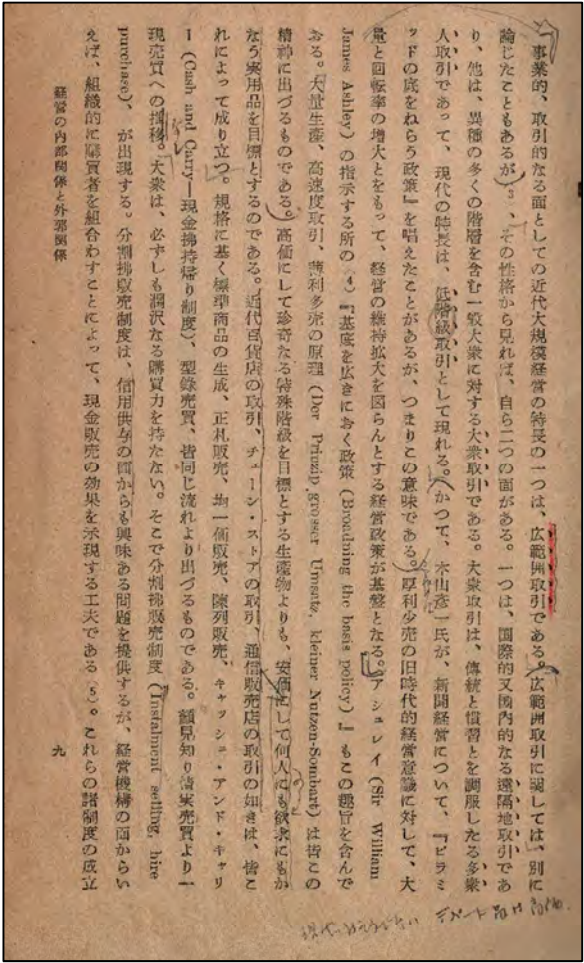
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1312
受入日	1950年11月16日

記載情報	
頁数	20頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①余白左 ②余白左下
備考	①青ペン書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① Cost ② コンナノガ分ラズンバ 神戸大学地ニオツ
----	------------------------------------

解説	文中の「その代り利潤もまた経費化する傾向にある」という箇所に黒鉛筆と青ペンで線引きがあり，そこに「？」や「！」が添えられている。②はその「？」に反応したものとみられ，「？」を書いた者の理解力のなさを嘆いている，あるいは小馬鹿にしているとも受け取れる。
----	---

担当	五味健太郎
----	-------



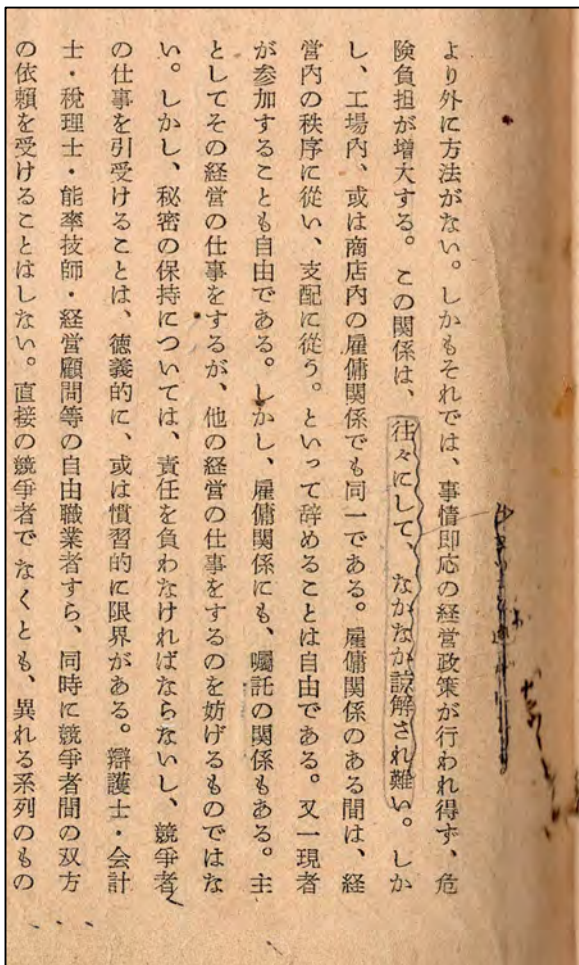
書誌情報	
著者/編者	経営研究会編
書名	経営の内部関係と外郭関係
出版社	國元書房
出版年	1951年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1465
受入日	1951年11月5日

記載情報	
頁数	平井泰太郎執筆部 9頁
場所	①余白下
備考	①黒ペン書き

翻刻	① 現代はそうでない デパート品は高価。
----	----------------------

解説	文中の「安価にして何人にも欲求にもかなう実用品を目標とするのである。近代百貨店の取引、チェーン・ストアの取引、通信販売店の取引の如き」の箇所線引きがあり、①は、そこを指す形で書かれている。
----	--



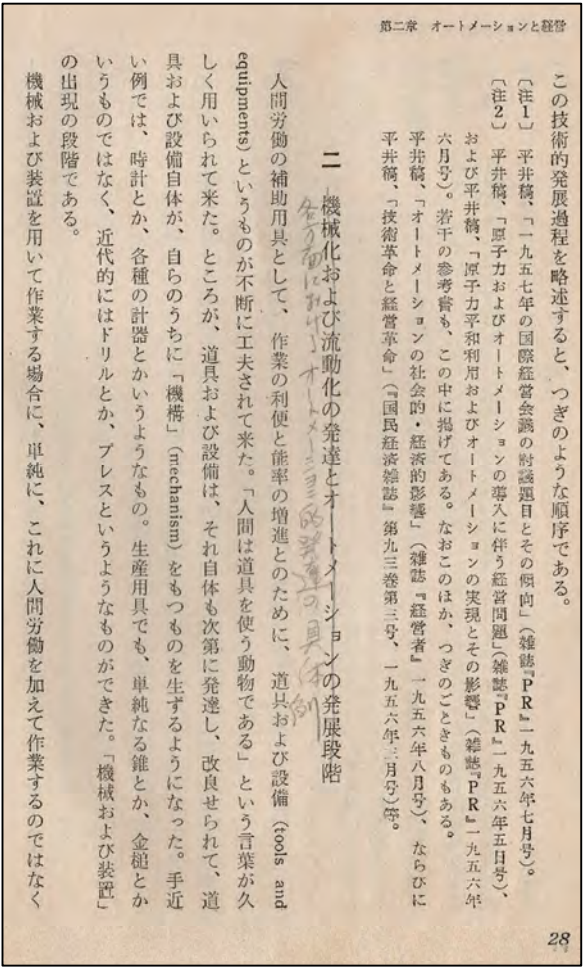
書誌情報	
著者/編者	経営研究会編
書名	経営の内部関係と外郭関係
出版社	國元書房
出版年	1951年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1465
受入日	1951年11月5日

記載情報	
頁数	平井泰太郎執筆部 13頁
場所	①余白右下 ②余白右下
備考	①黒ペン書き（取り消し線） ②青ペン書き

翻刻	① うまいこと逃げに□□□ ② 「ナニウートンノン」
----	-------------------------------

解説	①は、文中の線引きがある「往々にして、なかなか諒解され難い」の箇所に対して書かれたものである。②は、平井泰太郎の考えを支持できない者が書いた落書きに対するツッコミであり、平井泰太郎を支持する者が書いたと推測される。ここでも学生たちが落書きを通じて「会話」しているように見える。
----	--



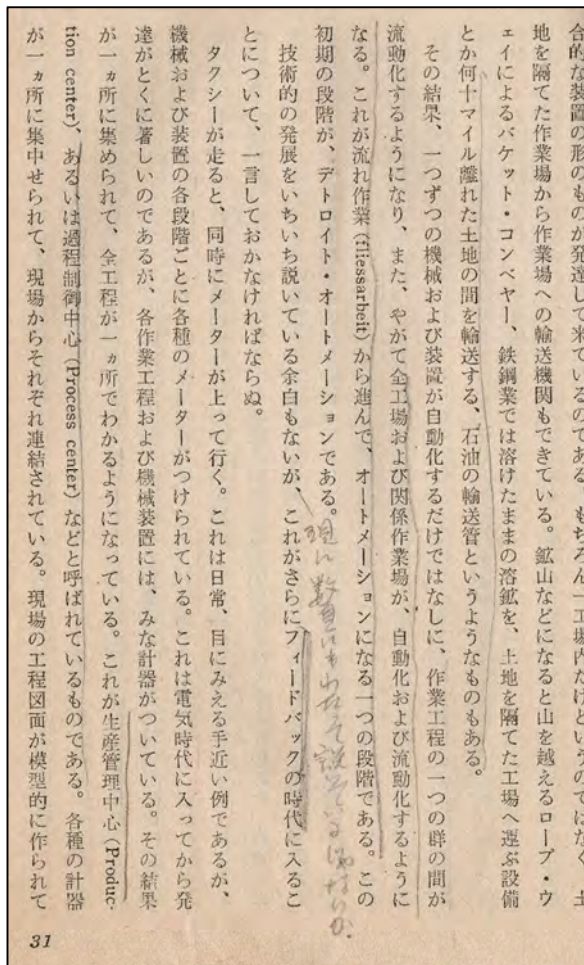
書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変わるか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	28頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 各方面におけるオートメーション的発達の具体例
----	--------------------------

解説	①は、節のタイトルを取り消し線で消し、より適当と思われるタイトルを提案したものである。これは、同書の他の複数頁に落書きを書いた者によるものとみられ、冗長な説明に不満を感じて、タイトルを提案したものと思われる。
----	--



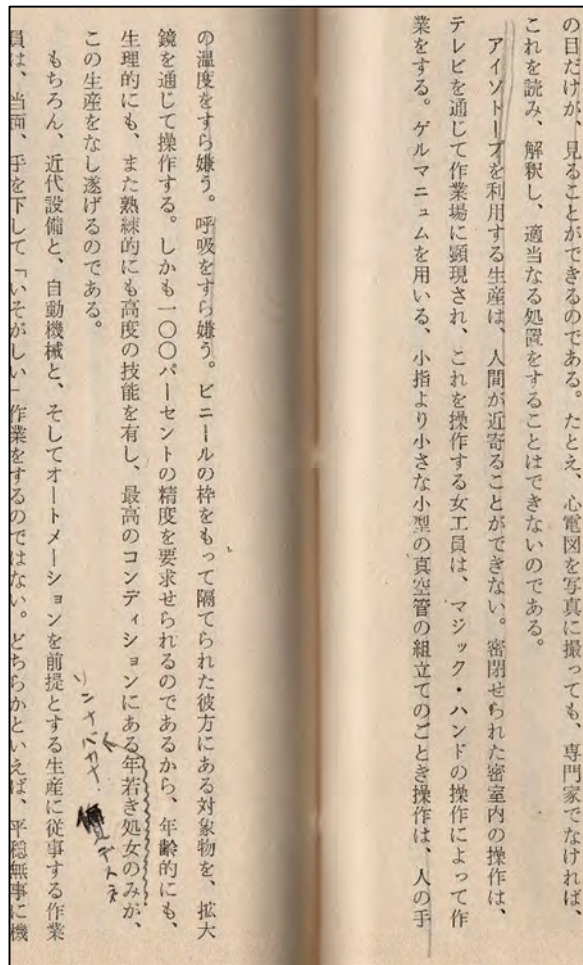
書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変るか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	31頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 現に数頁にもわたって説いているじゃないか。
----	-------------------------

解説	①は、文中で「技術的の発展をいちいち説いている余白もないが」としていながら、その説明が4頁にも及んでいることに不満を感じて書いたものである。平井泰太郎の冗長な説明が気に入らない様子がうかがえる。この気持ちが、先のように節のタイトルの提案につながったものと思われる。
----	--



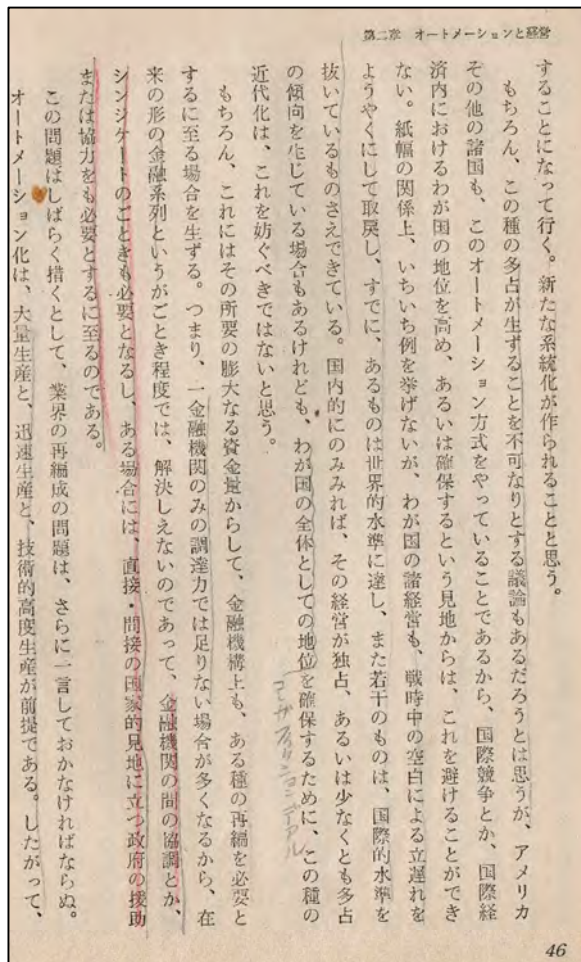
書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変わるか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	41頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中
備考	①黒ペン書き

翻刻	① ソナバカナ。偏見デスネ
----	---------------

解説	平井泰太郎は、40頁から41頁にかけて、アイソトープを利用する生産活動が非常に繊細であることから、「年齢的にも、生理的にも、また熟練的にも高度の技能を有し、最高のコンディションにある年若き処女のみが、この生産をなし遂げる」と書いている。①は、現代ではセクハラ発言とも思われる部分に対して否定的な感情を示したものである。平井泰太郎の独特の表現といえるが、そういった表現が好き嫌いの感情や経営学に対する考えに影響を与えていたのかもしれない。
----	--



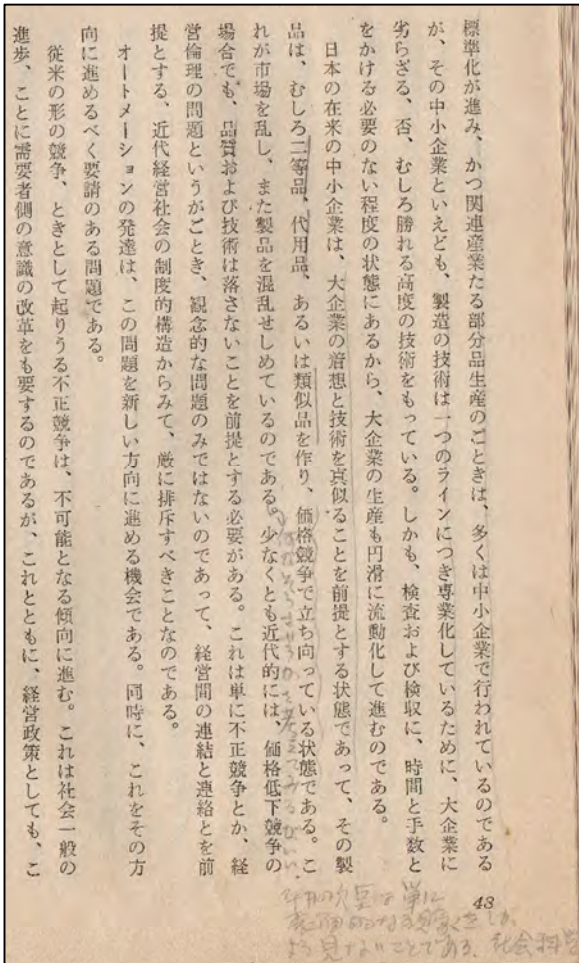
書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変わるか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	46頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① コレガフィクションデアル
----	----------------

解説	①は、文中に線引きのある「わが国の全体としての地位」の箇所を指して書かれたものであり、平井泰太郎が講義で大風呂敷を広げることがしばしばみられたことから、これも作り話であるように感じたのかもしれない。
----	---



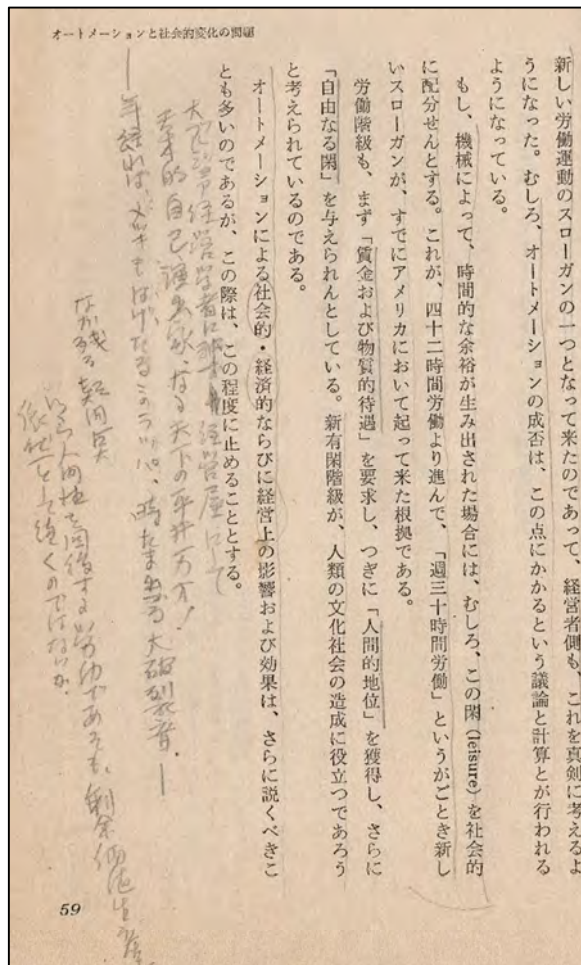
書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変わるか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	48頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①文中 ②余白右下
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① 何がそうさせるかを考えてみるがいい。 ② 平井の欠点は単に表面的な現象をしかよう見ないことである。社会科学
----	---

解説	①と②は、文中の「日本の在来の中小企業は、大企業の着想と技術を真似ることを前提とする状態であって、その製品は、むしろ二等品、代用品、あるいは類似品を作り、価格競争で立ち向かっている状態である。これが市場を乱し、また製品を混乱せしめている」という主張に向けられたものである。確かに、調査者が前後の文章を読んでも、なぜその状態であるのかは分からなかった。この落書きを書いた者は、それを考えずに学問を語るなといったかったのかもしれない。平井泰太郎の考えや経営学は物事の本質を捉えていないため、学問とはいえないという強い批判のようにも読み取れる。
----	--



書誌情報	
著者/編者	ダイヤモンド社編
書名	オートメーションによって経営はどう変わるか
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1956年

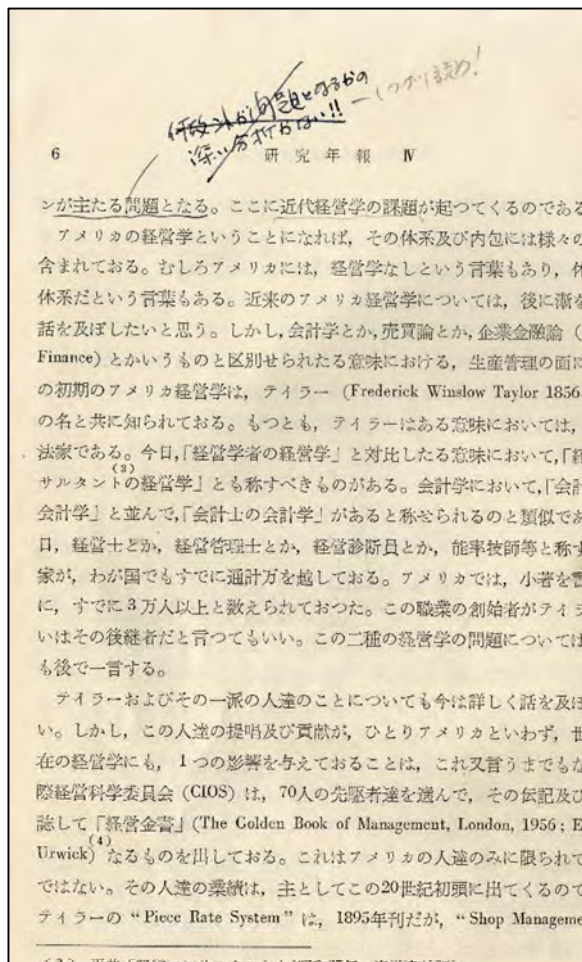
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1811
受入日	1956年11月20日

記載情報	
頁数	59頁 平井泰太郎執筆箇所
場所	①余白左
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 大ブルジョア経営学者に非ず経営学屋にして 天才的自己演出家なる天下の平井万才！ 一年経れば、メッキもはげたるこのラッパ、時たま出づる大破裂音。—— なお残る疑問点 いくら人間性を回復する労働であっても、剰余価値生産は 依然として続くのではないか。
----	--

解説	①は、同書に多くの落書きを残している者による落書きである。平井泰太郎に対する不満や呆れといった感情が爆発しているように思われる。平井泰太郎を「経営学者」ではなく「経営屋」としているところにも、強い皮肉と痛烈な批判が込められており、学問として経営学を認めないという気持ちが感じられる。
----	--

資料番号 平井-74-1



書誌情報

著者/編者	平井泰太郎
書名	経営構造の進展と経営学の対象
出版社	神戸大学経営学部
出版年	1959年

所蔵情報

所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-2199
受入日	1959年5月30日

記載情報

頁数	6頁
場所	①余白上 ②余白上
備考	①黒ペン書き (×印) ②黒鉛筆書き

翻刻

- ① 何故これが問題となるかの深い分析がない!!
- ② しつかり読め!

解説

①は、文中の「コストダウンが主たる問題となる」という箇所に対してのコメントであり、平井泰太郎の説明に納得がいかない様子である。平井泰太郎は自分が分かっていることの説明を省く傾向があったのかもしれないが、②は、読めば分かるとしている。これも、学生たちのささやかな「会話」の1つである。

担当 津曲杏奈

資料番号	平井-74-2
------	---------

経営構造の進展と経営学の対象 25 外をなすものではない。基幹大工業、例えば鉄鋼とか、 主導会社の経営が社会的に甚だ大なる影響を持つ事業で をしも「企業」と呼ぶならば、これもまた決して営利性 の得ない。生産性、公共性、社会性がまた重要な衡 も一般的に把握することは難しい。多くの直接的、間接 する。国家公共団体さえもが一定の関与をする場合があ 済性の上位概念として、<u>総合的経済性</u>が問題となる。た 経済性は、国民経済の経済性とは同義ではない。経営社 これをしも<u>近代的経済的総合経済性</u>というべきである。 う文字に対する理念さえもが、論者の中には前時代的 る場合が少なくないのである。 的に指称すれば、「経営または経営経済」で間違いはな 言葉の発生した時代における歴史性がどうしても残留 対象の発展と成長に伴い、その言葉だけでは概念の内 より表現が不十分となってくる。従つて、今日の経営分 も、分析せんとする場の領域と段階とに従つて、言葉さ びして、その内にこれを区別し選択して採用される。こ 人々が現場で使つておる表示がそのまま採用される。経 だが、経営という一般的な言葉を避けて、会社とか、工 文店とか、出張所とか、部・局・課とか、工場内のプロ とか、セクションまでを分つて指称する。これはドイツ リスでも同様である。会社の上位概念として、子会社、 ち概念として<u>系列会社</u>とか、<u>経営群</u>とか、<u>経営圏</u>とか、 ちえ方をも必要とするに到る。会社の一工場が既に地方 ることさえ珍しくない。ここにシングル・インダストリ
--

書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営構造の進展と経営学の対象
出版社	神戸大学経営学部
出版年	1959年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-2199
受入日	1959年5月30日

記載情報	
頁数	25頁
場所	①余白右上
備考	①青ペン書き

翻刻 ① ナンセンス。 第一次収益性と第二次収益性が不明確。	
--	--

解説 ①は、「ナンセンス」とあることから、平井泰太郎の主張の至らない点を突こうとしていたのかもしれない。	
---	--

担当	津曲杏奈
----	------

経営構造の進展と経営学の対象	
37	
か、成長期とかには、えてして旧時代のものと新時代のものとが重複することもある。殊にこの時代には、戦争・戦後・次の戦争準備あるいは防衛という問題も、相次いで起つておる。冷たい戦争、思想戦争などというものもある。この一々を解き明かす余裕はない。しかし、人々はこの新たな課題を与えられて、再びその解決に努力するのである。 過剰は不足と同意義の不合理である。およそ経営^{を済}の原理は、<u>約分</u>である。全ての要素がまた成果が目的に即して均衡を保つ時に十全の経営性を發揮するのである。 そこでまた新たな努力を続けて行く。ものの不足なる時代あるいは領域では、生産性が問題となる。しかし過剰なる時代あるいは領域では、配給性および^{配給あり}充満性が問題となる。今日マーケティング時代といわれるのは、このことである。しかし、調達も、生産も、配分も、売買も、充満もみな組織と大衆とを前提として行われる。少くとも、経営をめぐる多くの利害関係集団 (interest groups) の諸関係 (relations) が制度的に円滑であり、また関係者の理解、すなわち納得と得心とが前提である。今日 P R 時代という言葉が出てくるのはこのことである。 今日の諸経営においては、4本の柱が立つておるといわれる。金融、生産、販売、および P R である。このことが重要となり来たつたのは、時代である。もちろんこれを円滑に動かすものは人の問題である。かつ組織の問題である。その組織には、秩序の安定とこれを動かす技術とが問題となる。この意味において、そのそれぞれの面を監視する学派もまた発達してきておるわけである。 Ⅳ 今後の問題 新しき時代および新しき経営構造を前提として、経営学はまた新しき幾たの課題を与えられたわけである。新時代の経営者および関係者は、鋭意これを解決することに努力するであろう。しかし、経営学者はこの努力を助付けて説明	

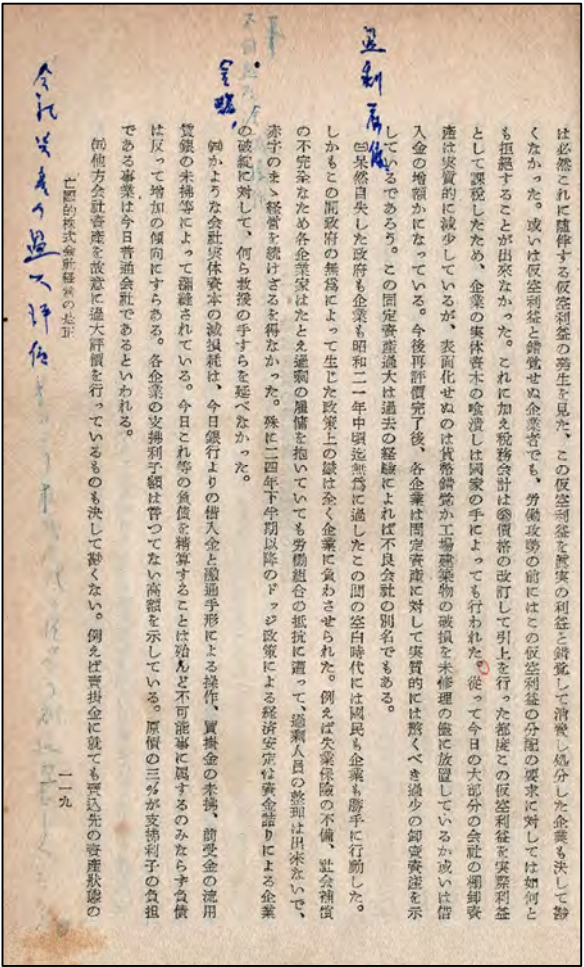
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎
書名	経営構造の進展と経営学の対象
出版社	神戸大学経営学部
出版年	1959年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-2199
受入日	1959年5月30日

記載情報	
頁数	37頁
場所	①文中 ②文中 ③文中
備考	①黒ペン書き ②黒ペン書き ③黒ペン書き

翻刻	① 経済 ② 批評あり ③ この前提が現実には満たされていないではないか？
----	---

解説	①は、文中の「経営経営」となっている部分の後半を修正し、「経営経済」に修正しようとしたものである。他の頁では「批判あり」という文言が複数みられたことを考えると、②は、「批評」ではなく「批判」であったのかもしれない。③は、平井泰太郎の主張に疑問を投げかけるものである。これは、平井泰太郎に向けられた疑問なのか、この著書を手にする学生に向けて同意を得ようとしたのかは分からない。
----	---



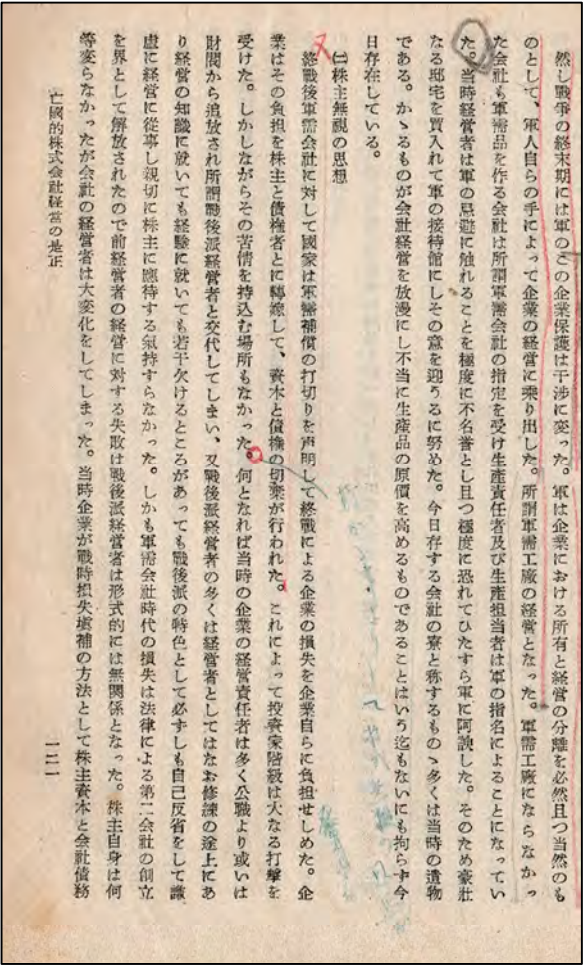
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1752
受入日	1956年3月10日

記載情報	
頁数	119頁
場所	①余白上 ②余白上 ③余白上 ④余白左 ⑤余白左
備考	①青ペン書き ②青鉛筆書き ③青ペン書き ④青ペン書き ⑤青鉛筆書き

翻刻	① 過剰雇傭 ② 不自然な金融操作 ③ 会□ ④ 会社資産の過大評価 ⑤ 者により株式会社の経営の破綻は著しくなつた。
----	---

解説	①から⑤は、平井泰太郎の執筆部に書かれたものではないが、いずれも文中に近い単語が使われており、内容を整理するために書かれたとみられる。④は、本文に由来するものであり、⑤は、それに続く形で別の者によって補足しているようにみえる。
----	---



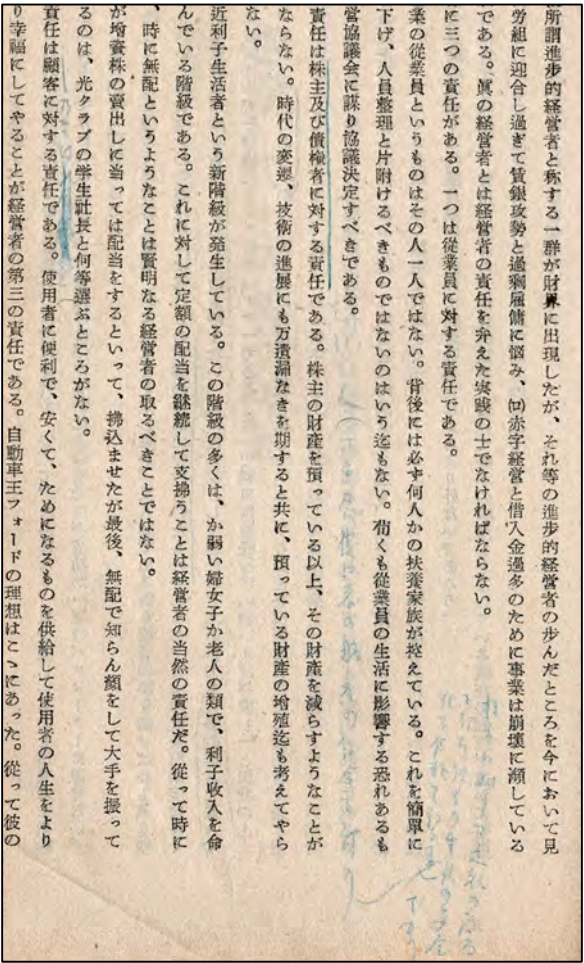
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1752
受入日	1956年3月10日

記載情報	
頁数	121頁
場所	①文中
備考	①青鉛筆書き

翻刻	① 斯かる事より□□て株式無視の思想が発生した
----	-------------------------

解説	①は、別の者によると思われる読点に対する赤鉛筆で書かれた丸印に対して言及している。この部分が、「株式無視の思想」（文中では株主無視の思想）の原因であることを指摘しているとみられる。
----	--



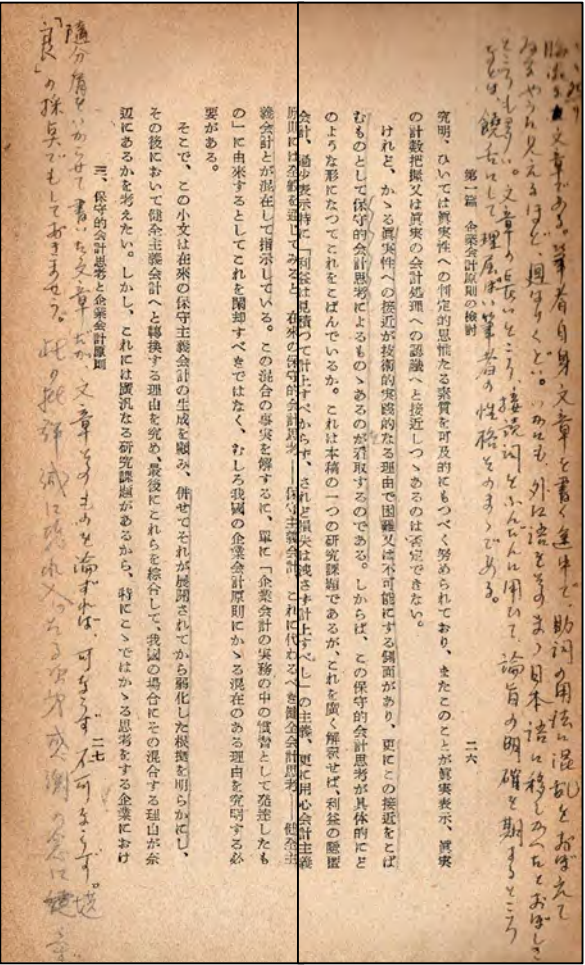
書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	経営目的の達成と経営構造
出版社	國元書房
出版年	1950年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1752
受入日	1956年3月10日

記載情報	
頁数	125頁
場所	①文中
備考	①青鉛筆書き

翻刻	① を□る人（株主が債権者の財産の保全を計り 株主は財□□定後の配当を行ひ□□の□□の安全化を□□て□□）であり
----	--

解説	①は、文中の内容を整理したものとみられるが、青鉛筆書きの文字がかすれていて判読が困難な箇所が複数ある。
----	---



書誌情報	
著者/編者	平井泰太郎編
書名	企業会計原則批判
出版社	國元書房
出版年	1950年

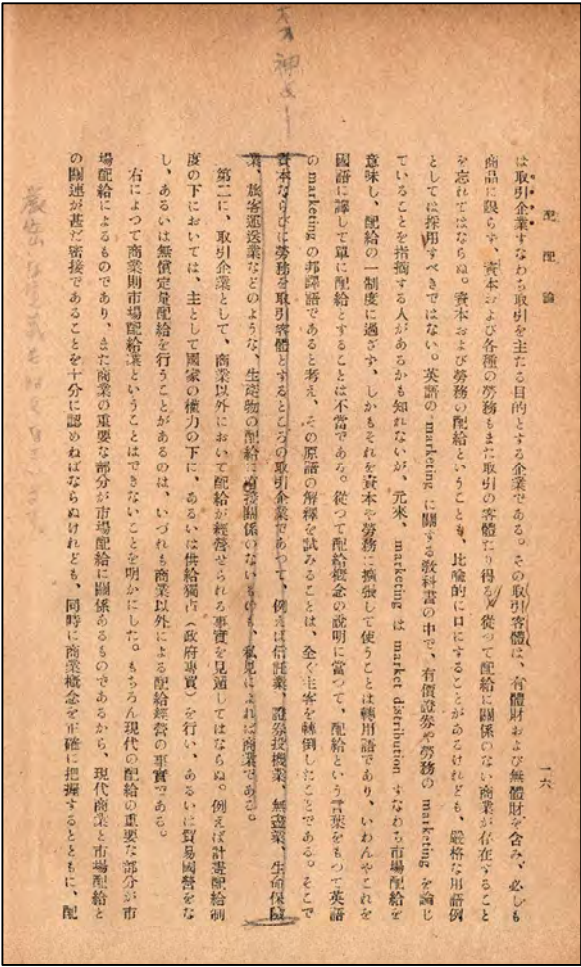
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-7-850
受入日	1950年9月20日

記載情報	
頁数	26頁, 27頁 久保田音二郎執筆箇所
場所	①余白右 ②余白左 ③余白左
備考	①黒ペン書き ②黒ペン書き ③黒鉛筆書き

翻刻	① ・・然り 晦澁な文章である。筆者自身文章を書く途中で、助詞の用法に混乱をおぼえてゐるやうに見えるほど、廻はりくどい。いかにも、外国語をそのまゝ日本語に移しかへたとおぼしきところも多い。文章の長いところ、接続詞をふんだんに用ひて、論旨の明確を期するところなどは、饒舌にして理屈っぽい筆者の性格そのまゝである。
	② 随分肩をいからせて書いた文章だが、文章そのものを論ずれば、可ならず不可ならず。「良」の採点でもしておきませう。
	③ 此の批評識に恐れ入った次第感謝の念に堪えず

解説	①と②は、この章を執筆した久保田音二郎に対して書かれたものである。2つとも、同一の者によるものであり、26頁の余白に入りきらなかった続きを27頁の余白に書いている。文章について、かなり厳しい批評を行っており、③は、それに同意する者が賛意を示している。
----	---

資料番号	福田-42-1
------	---------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	配給論
出版社	同文館
出版年	1948年

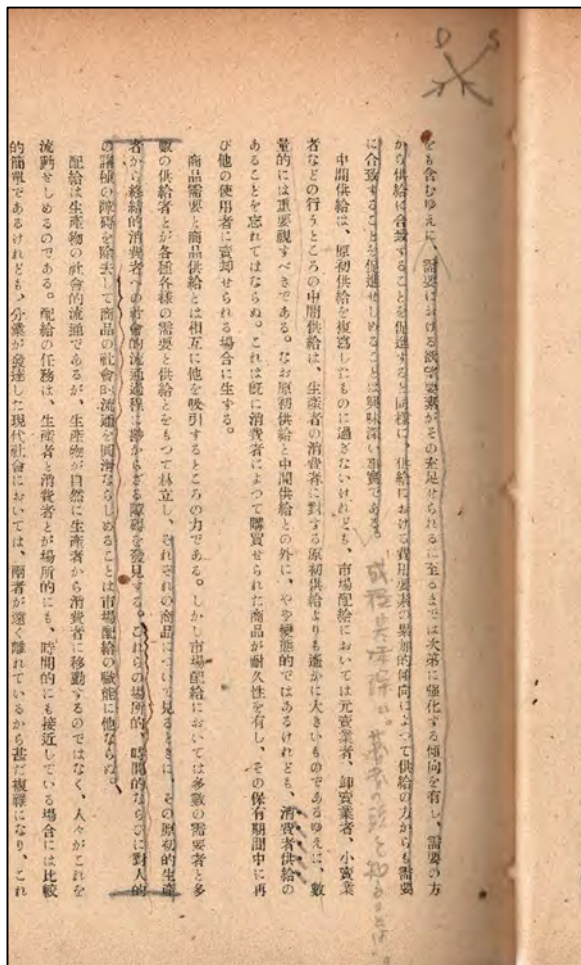
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1269
受入日	1948年11月27日

記載情報	
頁数	16頁
場所	①余白上 ②余白左
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① オオ神よー ② 厳密な定義も時々なさいます。
----	-----------------------------

解説	①は、文中に線引きのある「資本ならびに勞務を取引客體とするところの取引企業であつて、例えば信託業、證券投機業、無盡業、生命保險業、旅客運送業などのような、生産物の配給に直接関係のないものも、私見によれば商業である」の箇所に対して書かれている。②も、その線引きの箇所を指して書かれたものと思われる。
----	--

担当	平野恭平
----	------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	配給論
出版社	同文館
出版年	1948年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1269
受入日	1948年11月27日

記載情報	
頁数	23頁
場所	①余白右上 ②文中
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① S ← → D ② 成程興味深い。著者の頭を知ることは。
----	--

解説	文中で需要と供給が一致することを説明した箇所に線引きがあり、①はそれを図示したものである。また、その説明の箇所の最後に「興味深い事実である」ということに対して、②が書かれている。②を書いた者が、福田敬太郎にどのような感情を抱いていたのかまでは読み取ることができない。
----	--



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	配給論
出版社	同文館
出版年	1948年

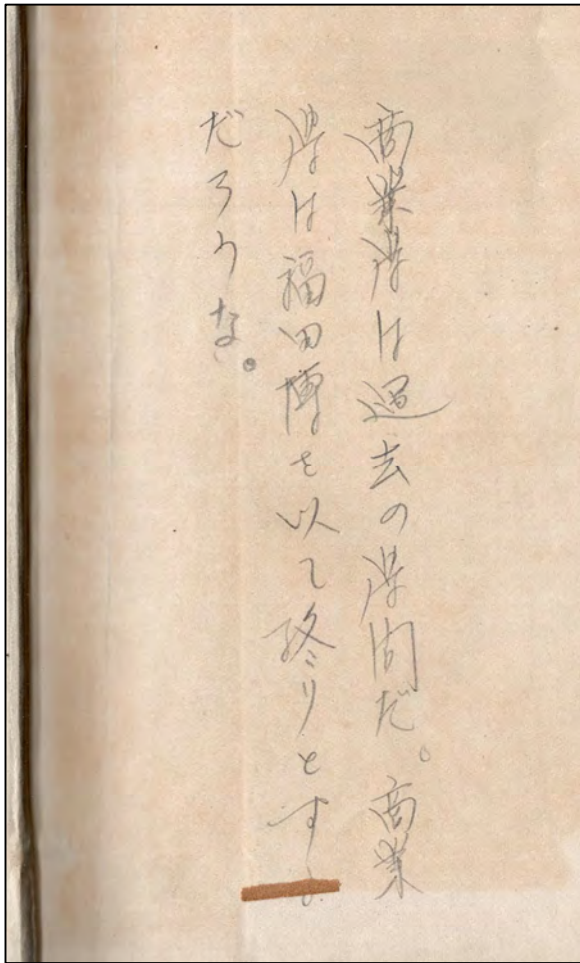
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1269
受入日	1948年11月27日

記載情報	
頁数	34頁
場所	①余白上
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 要はもうける為により多く売りつける競争手段として重要なのだ。
----	----------------------------------

解説	①は、文中の配給効果を指して書かれたものである。
----	--------------------------

資料番号 福田-42-4



書誌情報

著者/編者	福田敬太郎
書名	配給論
出版社	同文館
出版年	1948年

所蔵情報

所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-1269
受入日	1948年11月27日

記載情報

頁数	
場所	見返し
備考	①黒鉛筆書き

翻刻

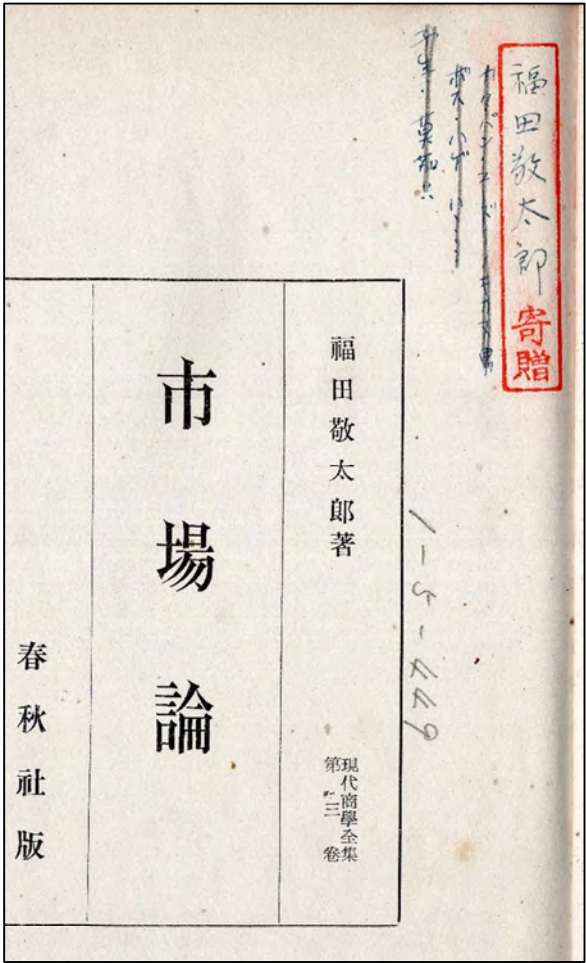
① 商業学は過去の学問だ。商業学は福田博を以て終りとするだろうな。

解説

①は、商学を過去の学問といていることから、平井泰太郎の経営学に期待を寄せる者によって書かれたとみられる。商学を代表する福田敬太郎の著書に書かれた数少ない落書きの1つといえる。

担当 平野恭平

資料番号	福田-45-1
------	---------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	市場論
出版社	春秋社
出版年	1950年

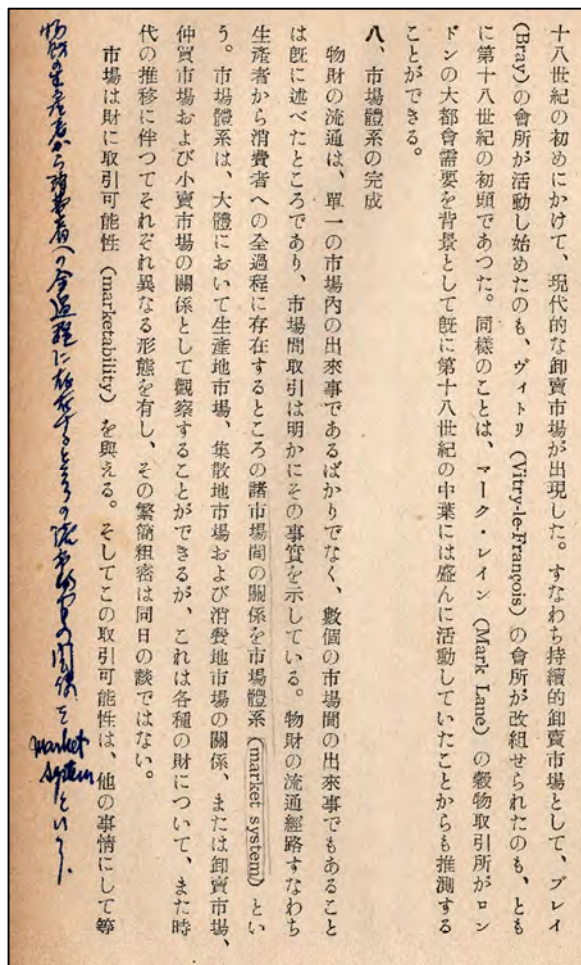
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-5-449
受入日	1950年12月6日

記載情報	
頁数	
場所	①余白右上
備考	①黒ペン書き（取り消し線）

翻刻	① カタパン・ユーズーノキカヌ男 ボス・ハゲ ハ… □生・莫茄！！
----	--

解説	①は、かなり厳しい言葉が続き、福田敬太郎にネガティブな感情を抱く者によって書かれた落書きとみられる。「茄」は「迦」の誤字とみられる。
----	---

担当	眞鍋泰自
----	------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	市場論
出版社	春秋社
出版年	1950年

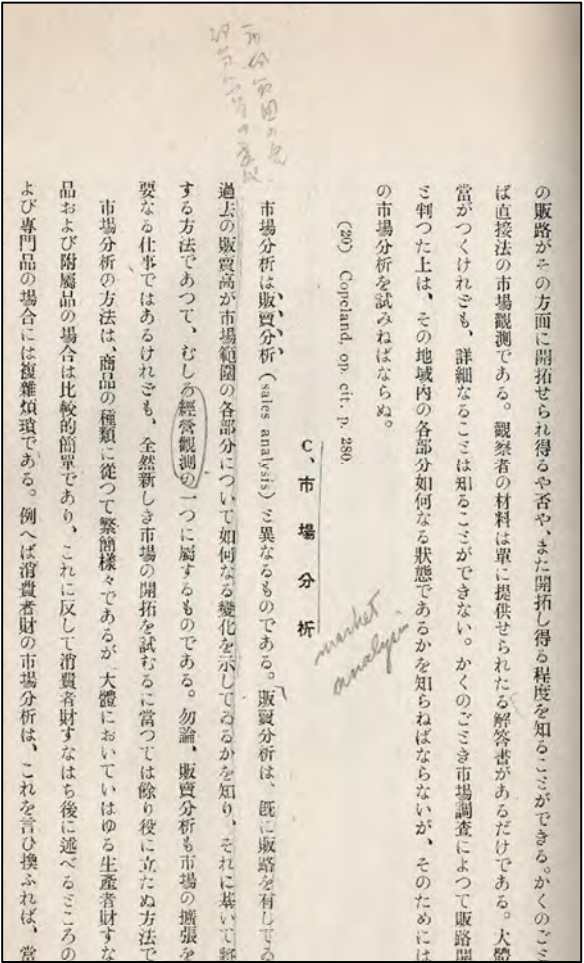
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-5-449
受入日	1950年12月6日

記載情報	
頁数	43頁
場所	①余白左
備考	①青ペン書き

翻刻	① 物財の生産者から消費者への全過程に存在するところの諸市場の関係を market system という。
----	---

解説	①は、落書きというよりも書き込みといえる。書いた者が、文中の内容を自分なりにメモしたものである。
----	--

資料番号	福田-6-1
------	--------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	市場論
出版社	千倉書房
出版年	1930年

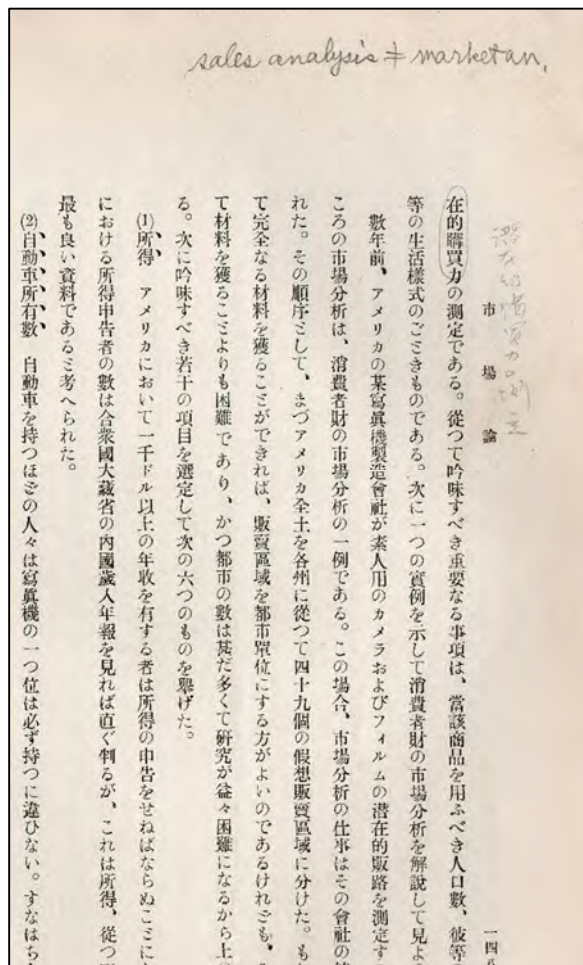
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-5-281
受入日	1930年4月2日

記載情報	
頁数	147頁
場所	①文中 ②余白上
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① market analysis ② 市場範囲についての各部分の変化
----	--

解説	①は、用語（市場分析）を英語でメモしたものである。②は、文中の記述を単に書き出したものである。
----	---

担当	眞鍋泰自
----	------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	市場論
出版社	千倉書房
出版年	1930年

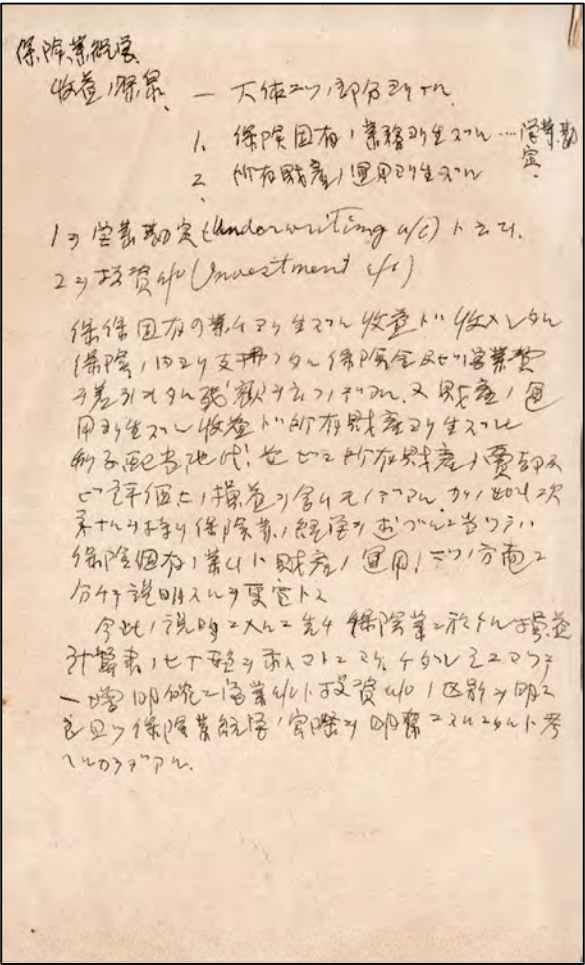
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-5-281
受入日	1930年4月2日

記載情報	
頁数	148頁
場所	①余白右上 ②余白右
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① sales analysis ≠ marketan, ② 潜在的購買力の測定
----	---

解説	①は、用語の確認についてのメモ書きとみられる。②は、文中の記述を単に書き出したものである。
----	---

資料番号	福田-10-1
------	---------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	市場論
出版社	春秋社
出版年	1931年

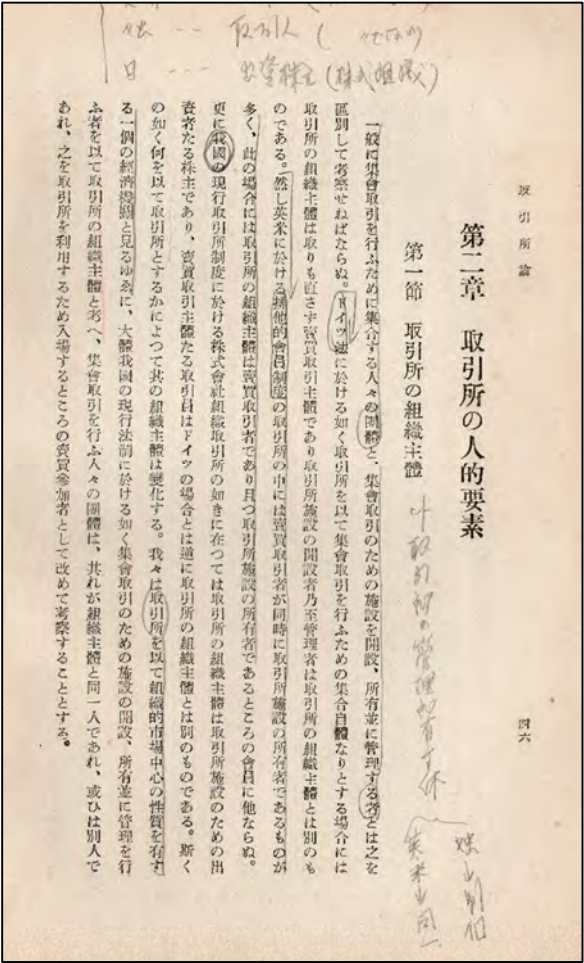
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-1-621
受入日	1931年11月27日

記載情報	
頁数	
場所	①見返し
備考	①黒ペン書き

翻刻	① 保険業経営。 収益ノ源泉，一大体ニツノ部分ヨリナル。 1. 保険固有ノ業務ヨリ生ズル…営業勘定 2. 所有財産ノ運用ヨリ生ズル 1ヲ営業勘定（Underwriting a/c）ト云ひ。 2ヲ投資a/c（Investment a/c） 【以下，省略】
----	---

解説	①は，保険業経営について整理したものとみられる。ただし，同書の第4章「商業の種類」第4節「勞務取引業」第3款「保険業」の内容を要約したものではなさそうである。
----	--

担当	平野恭平
----	------



書誌情報	
著者/編者	福田敬太郎
書名	取引所論
出版社	千倉書房
出版年	1938年

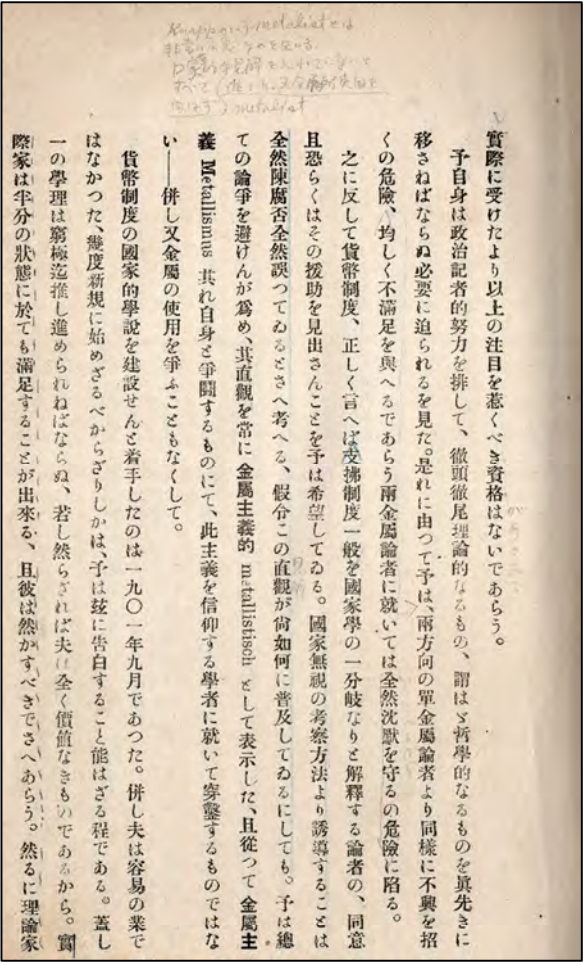
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-5-391
受入日	1938年4月18日

記載情報	
頁数	46頁
場所	①余白上 ②余白右下
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① 英・米…取引人（管理者でもある） 独…取引人（〃でない） 日…出資株主（株式組織） ② cf取引所の管理所有主体 独→別個 英・米→同一
----	--

解説	①は、文中の内容を整理したものとみられる。②は、内容に関連する参考情報を書いたようである。
----	--

資料番号	宮田-2-1
------	--------



書誌情報	
著者/編者	クナップ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-405
受入日	1923年1月31日

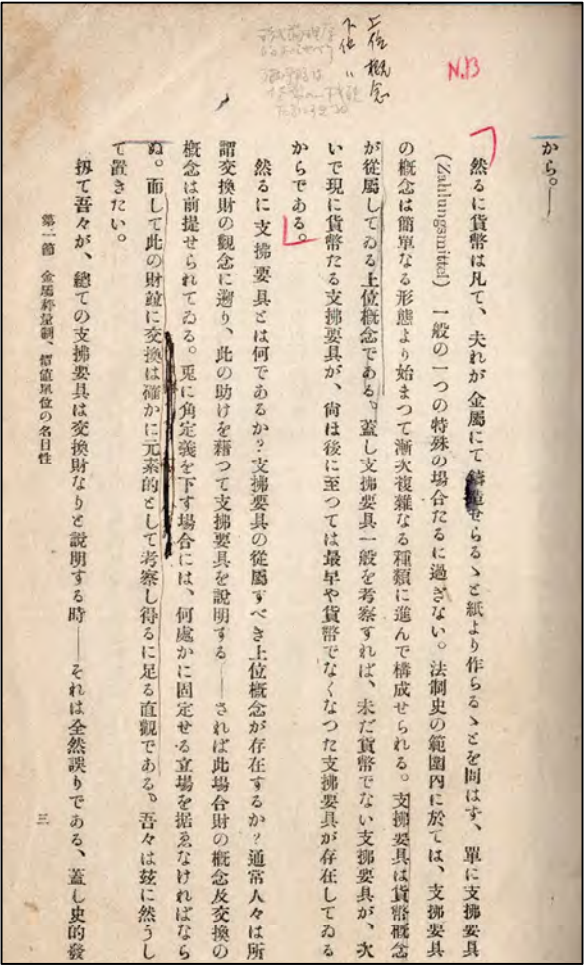
記載情報	
頁数	著者序文3頁
場所	①余白上
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① Knappのいうmetalistとは非常に広義なのを知る。 国家的な見解を入れていないとすべて（誰でも又金融使用を問はず） metalist
---------------	---

解説	①は、クナップの金属主義（metallismus）の定義についての感想を書いたものである。この頁の文中にも、同一の者によるとみられる書き込みがいくつもみられる。
---------------	---

担当	吉住宗晃
----	------

資料番号	宮田-2-2
------	--------



書誌情報	
著者/編者	クナッパ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-405
受入日	1923年1月31日

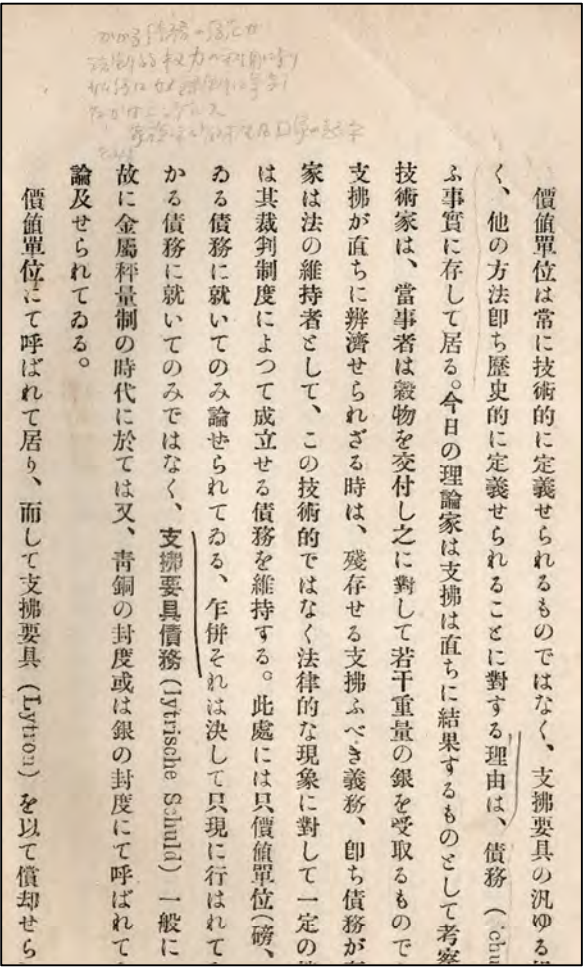
記載情報	
頁数	3頁
場所	①余白右上 ②余白上 ③余白上
備考	①赤鉛筆書き ②黒ペン書き ③黒鉛筆書き

翻刻	① N.B ② 上位概念 下位 // ③ 形式論理学のおしやべり 支拂手段は貨幣の一機能にすぎぬ.
----	--

解説	①は、赤鉛筆による鍵括弧で括った箇所に対して、よく注意せよの意であるラテン語のnota beneの略を書いている。②は、単なるメモである。③からは、文中にある「支拂要具」の説明に対する批判的な意思が読み取れる。
----	--

担当	吉住宗晃
----	------

資料番号	宮田-2-3
------	--------



書誌情報	
著者/編者	クナップ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-405
受入日	1923年1月31日

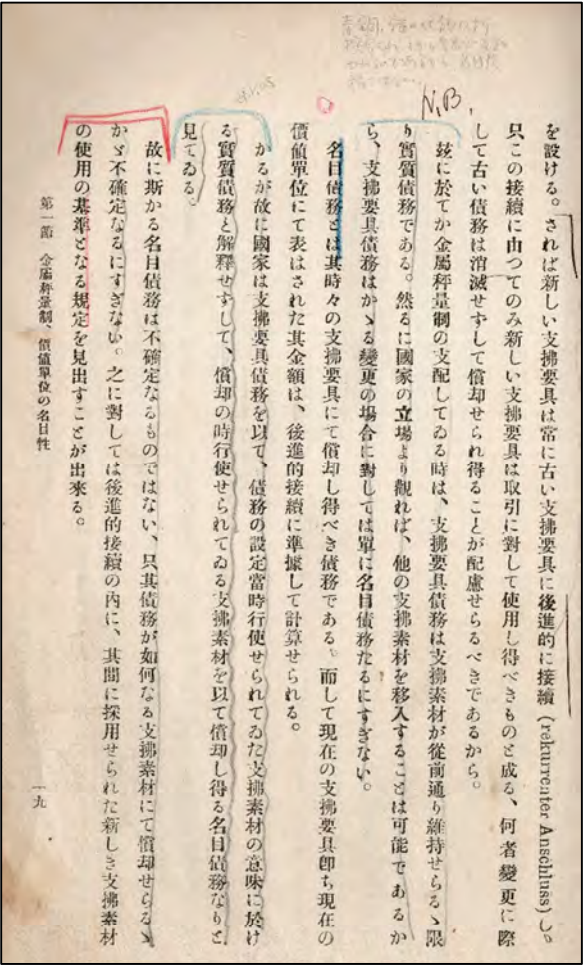
記載情報	
頁数	14頁
場所	①余白上
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① かかる債務の存在が法制的権力の利用により如何に奴隷制に寄与したかはエンゲルス家族・私有財産及国家の起源をみよ
----	--

解説	①からは、債権の存在でいわゆる債務奴隷が生まれたという債権への批判が読み取れる。また、根拠としてエンゲルスの文献を挙げている。同書には、同一の者とみられる書き込みが多数あり、批判的に同書を読んでいることがうかがえる。
----	--

担当	吉住宗晃
----	------

資料番号	宮田-2-4
------	--------



書誌情報	
著者/編者	クナップ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-405
受入日	1923年1月31日

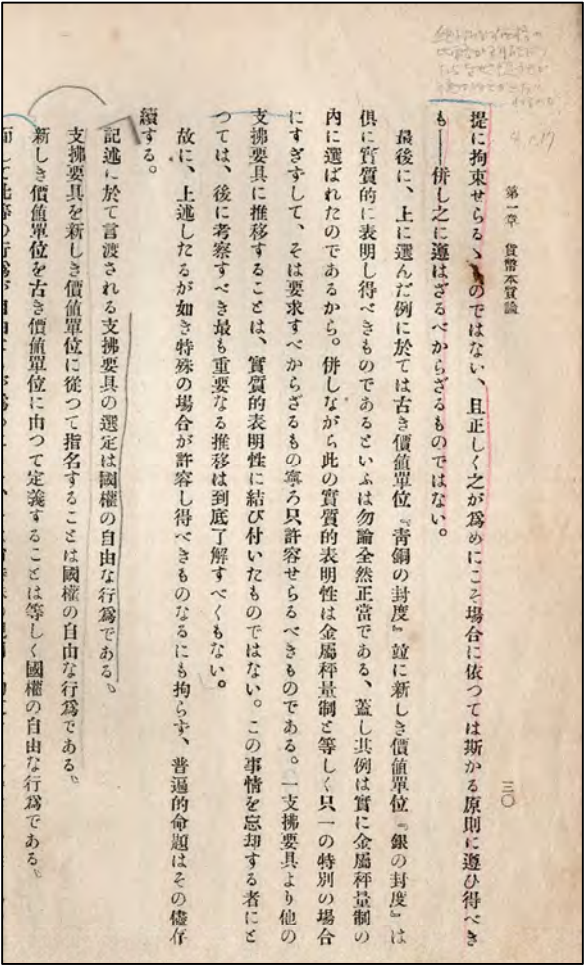
記載情報	
頁数	19頁
場所	①余白上 ②余白上 ③余白上
備考	①黒鉛筆書き ②黒ペン書き ③黒鉛筆書き

翻刻	① 青銅，銀の比価により換算され，しかも銀で支払われるのであるから，名目債務ではない ② N.B. ③ cf.p.25
----	--

解説	①は，「支拂素材」をめぐる見解の違いを述べている。②は，青鉛筆で括られた箇所に対して，よく注意せよの意味で書かれている。③も，同様に青鉛筆で括られた箇所について，参照すべき頁数を示している。
----	--

担当	吉住宗晃
----	------

資料番号	宮田-2-5
------	--------



書誌情報	
著者/編者	クナップ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

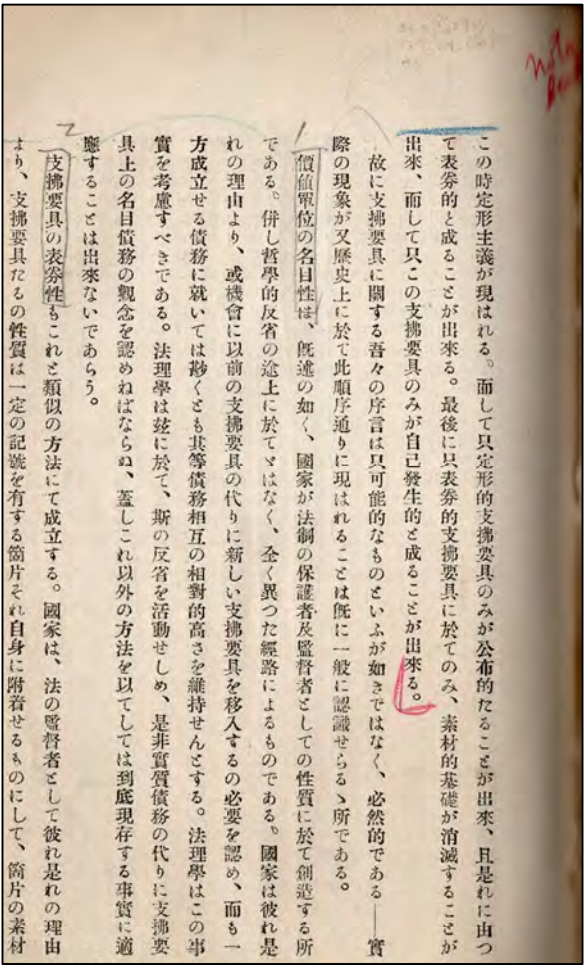
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-405
受入日	1923年1月31日

記載情報	
頁数	30頁
場所	①余白右上
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 絶対的に価格の比較が不可能だったらなぜ、従うとか従はぬとかこだわるのか cf.p.17
----	--

解説	①は、文中の説明に対する疑問点を書いたとみられる。また、参照すべき頁数も示されている。
----	---

担当	吉住宗晃
----	------



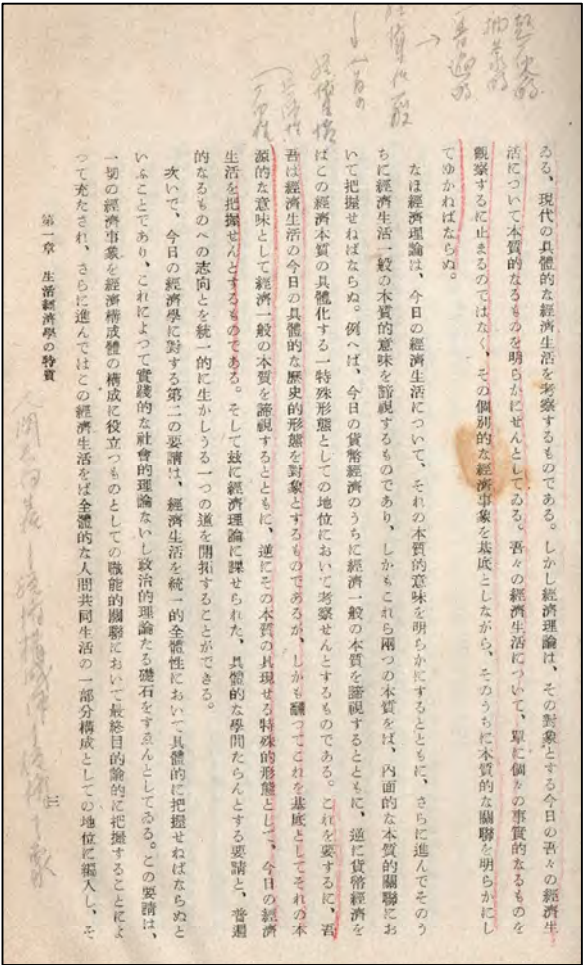
書誌情報	
著者/編者	クナップ（宮田喜代蔵訳）
書名	貨幣國定學説
出版社	岩波書店
出版年	1922年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	I-2-405
受入日	1923年1月31日

記載情報	
頁数	49頁
場所	①余白右上 ②余白右上
備考	①赤鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① nota bene ② それを論理的に整理，論記せよ
----	---------------------------------

解説	他の頁と同様に，①は，青鉛筆で括られた箇所に対して，よく注意せよとラテン語で書いている。②は，文中の「故に支拂要具に關する吾々の序言は只可能的なものといふが如きではなく，必然的である—實際の現象が又歴史上に於て此順序通りに現はれることは既に一般に認識せらるゝ所である」という主張に対して根拠を求めている。同一の者による批判的な書き込みは，ここで取り上げたもの以外にも無数にあり，同書をかなり丁寧に読み込んでいる様子が浮かび上がってくる。
----	--



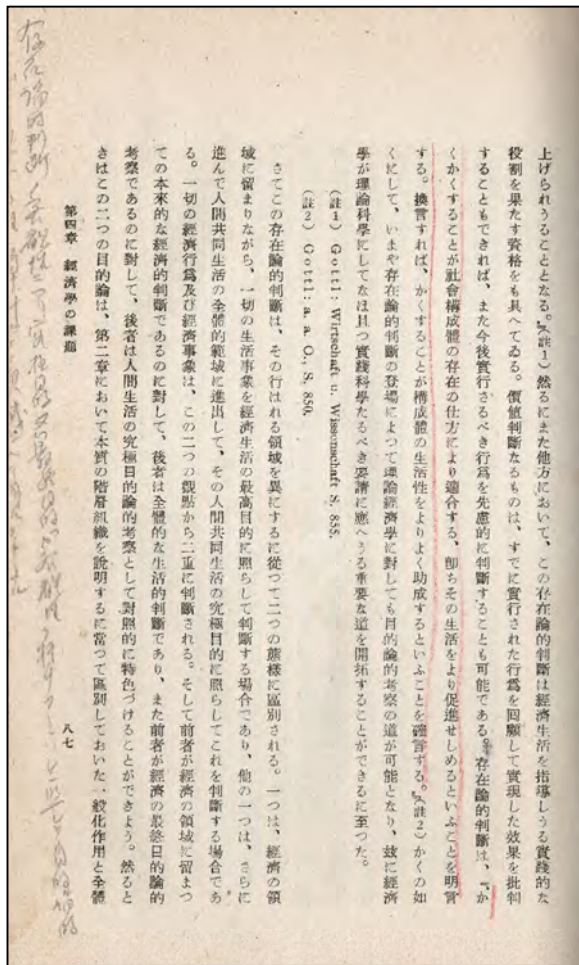
書誌情報	
著者/編者	宮田喜代蔵
書名	貨幣の生活理論
出版社	日本評論社
出版年	1941年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-1501
受入日	1941年3月10日

記載情報	
頁数	3頁
場所	①余白上 ②余白左
備考	①黒鉛筆書き ②黒鉛筆書き

翻刻	① □歴史的 抽象的 普遍的 ↑ 経済生活一般 → 人間の経済生活 具体性 歴史性 ② 人間共同生活—経済構成体—経済事象
----	---

解説	①と②は、頁内に書かれた内容を簡潔な言葉で整理している。同一の者による内容の整理は、同書に数多くみられ、学習意欲が強かったように感じられる。
----	---



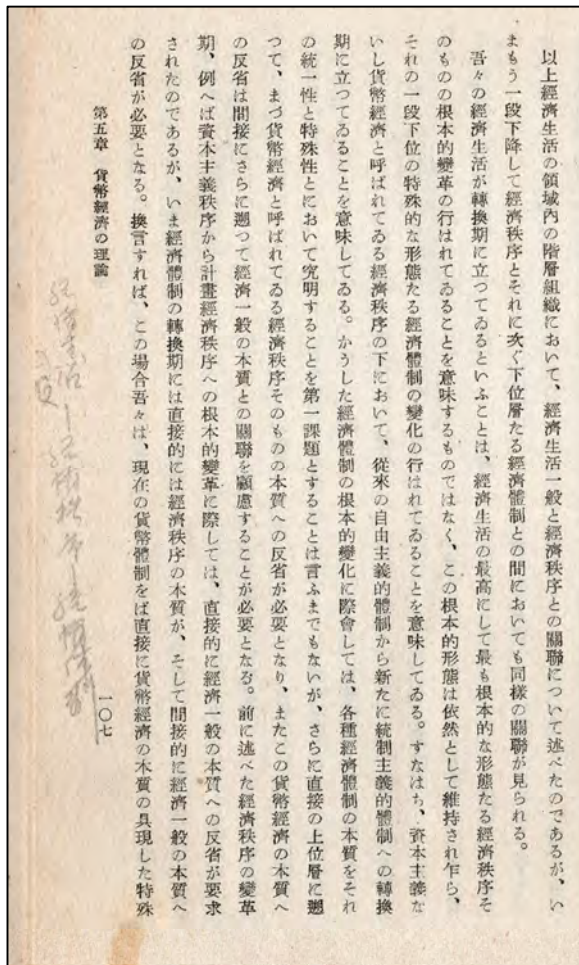
書誌情報	
著者/編者	宮田喜代蔵
書名	貨幣の生活理論
出版社	日本評論社
出版年	1941年

所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-1501
受入日	1941年3月10日

記載情報	
頁数	87頁
場所	①余白左
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 存在論的判断ノ客観性ニアリ究極目的又ハ最終目的ガ客観性ヲ持コミソレニ □シテ目的論的 【以下不明】
----	--

解説	①は、87頁に書かれた内容をまとめたものと思われるが、2行目が切れており 判読することができない。
----	--



書誌情報	
著者/編者	宮田喜代蔵
書名	貨幣の生活理論
出版社	日本評論社
出版年	1941年

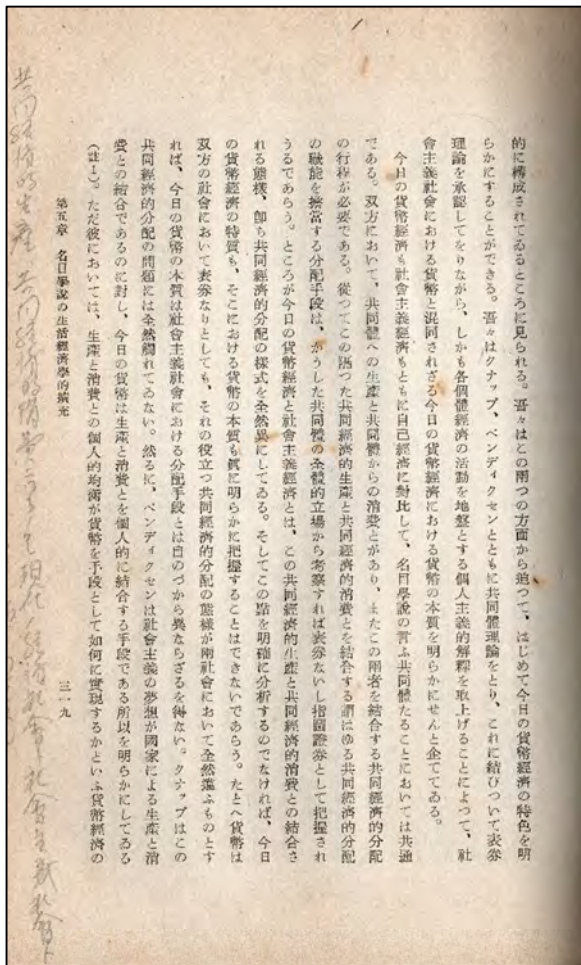
所蔵情報	
所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-1501
受入日	1941年3月10日

記載情報	
頁数	107頁
場所	①余白左
備考	①黒鉛筆書き

翻刻	① 経済生活□□—経済秩序—経済体制
----	--------------------

解説	①は、107頁の内容のメモのようなものである。
----	-------------------------

資料番号 宮田-18-4



書誌情報

著者/編者	宮田喜代蔵
書名	貨幣の生活理論
出版社	日本評論社
出版年	1941年

所蔵情報

所蔵館	社会科学系図書館
請求記号	1-2-1501
受入日	1941年3月10日

記載情報

頁数	319頁
場所	①余白左
備考	①黒鉛筆書き

翻刻

- ① 共同經濟的生產，共同經濟的消費ニ□□□□現代ノ經濟社會ト社會主義社會ト 【以下不明】

解説

①は、319頁の内容をまとめたものである。少し切れており、判読できない部分がある。同書には、同一の者による内容を整理した書き込みが散見される。また、請求記号1-2-1500の同じ書名の蔵書にも、内容を整理した書き込みが多くみられることから、学生たちが難解な内容をまとめながら読んでいた様子が見える。

担当 水田千尋